

私大図協・東・研・2023-45

2023 年 9 月 27 日

私立大学図書館協会東地区部会
加盟大学図書館長 殿

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
専修大学図書館
館長 廣瀬 玲子

研究部研修委員会
委員長 松下 裕
[公印省略]

私立大学図書館協会東地区部会研究部 2023 年度研修会の開催について（お知らせ）

拝啓 時下、貴台にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記研修を下記の通りオンラインにて開催いたしますので、ご案内申し上げます。

つきましては、この機会に多くの方にご参加いただきたく、貴館の関係者にご周知くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

テーマ： レファレンスサービス最前線～どうしよう。それでも利用者は待ってくれない～

コロナ禍によって図書館の利用方法もオンラインサービスや電子ブックの活用促進など、新しい転機を迎えたと考えられます。環境が変わりつつある今、図書館経験の長い職員やスタッフだけでなく、人事異動により初めて図書館担当となる職員やスタッフにとって、利用者と直接向き合うレファレンスサービスのノウハウの共有とスキルアップは、なお一層重要になってくるものと考えます。

サービスの形も変わりつつある中で、図書館の資料と利用者が必要とする情報を結びつけるレファレンスサービスの在り方を見直すことは、これからの図書館にとっても大きな意味を持つものと考え、今年度の研修会は、さまざまな視点からレファレンスサービスをテーマに取り上げます。

講演：

・13：07～13：57

（仮）レファレンスサービス最前線－レファレンスの実用スキルとツール－

慶應義塾大学非常勤講師 小林 昌樹 様

・ 13 : 57 ~ 14 : 32

(仮) 近畿大学中央図書館 学修支援とレファレンスサービス
近畿大学中央図書館 上野 芳重 様

・ 14 : 32 ~ 14 : 42

休憩

・ 14 : 42 ~ 15 : 17

(仮) レファレンス業務体制の変貌 -オンラインレファレンスの開設から-
立正大学図書館 吉水 拓哉 様

・ 15 : 17 ~ 15 : 52

(仮) レファレンスと電子資料
明治大学中野図書館 西脇 亜由子 様

※進行により時間は前後する場合がございます。

1. 日 時 : 2023 年 10 月 20 日 (金) 13 : 00 ~ 16 : 00 (Zoom ウェビナー方式)

2. 対 象 : 私立大学図書館協会東地区部会加盟大学図書館に勤務する専任職員

3. 定 員 : 480 名

1 大学複数名の申込も可能です。必ず 1 名ずつお申し込みをお願い申し上げます。

※申込者が多数の場合、別機関の方を優先させていただく場合がございます。

4. 費 用 : 受講無料

5. 動 画 : オンデマンドによる動画配信 (申込不要)

録画公開期間 : 11 月 1 日 (水) ~ 11 月 30 日 (木)

視聴方法については改めてご連絡いたします。

6. 参加申込 : <https://forms.office.com/r/kR7RsJmf0n>

※申込後、「受付完了メール」が自動配信されます。

【注意事項】

1. 申込期間 : 9 月 27 日 (水) ~ 10 月 17 日 (火) 17:00 まで

2. 研修中の録音および録画はご遠慮ください。

3. ご提供いただいた個人情報は、当研修会の実施に関する連絡等に利用します。

取得した個人情報は、上記の目的以外で利用する事はありません。(但し、法令等により提供を求められた場合を除きます。)

以 上

連絡先 : 私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校
専修大学 図書館 (担当 : 中田・水本)

Tel : 044-911-1274

E-mail : eastlib@acc.senshu-u.ac.jp

レファレンスサービス最前線

参照技法を言語化する必要

2023/10/20

講師：小林昌樹（慶應義塾大非常勤講師）

自己紹介



国立国会図書館（NDL）
東京本館（永田町）
人文総合情報室

レファレンス・サービス 日本での経緯

3

サービス輸入失敗史

今まで

- a. 代行業と誤解 = NDL調査及び立法考査局 1948-
- b. 貸出との不幸なリンク = 貸出後にやろう 1970



2000年ごろから

- a. **セルフ・レファレンス**の提唱 by 斎藤文男
- b. 第二次レファレンス・ブーム
レファ協DB
パスファインダーの流行

4

セルフ推奨と言っても

直接サービス継続の必要性

- レファ司書にスキルやツール知識がないと間接業務の質も低下する
- スキルを持つ（維持する）には実際にやり続けないと難しい（適度な・サンプル的な直接業務）

ネットをどう使うか

- ネットだけでも紙資料だけでもダメ。併用
→どう組み合わせるかが(これから必要な)ノウハウ
 - NDLデジコレは紙資料とみなす
 - ネットからuserをどう取込むか
- ニューヨーク公共図書館の
電話レファレンス風景
(ExLibris 2017 より)



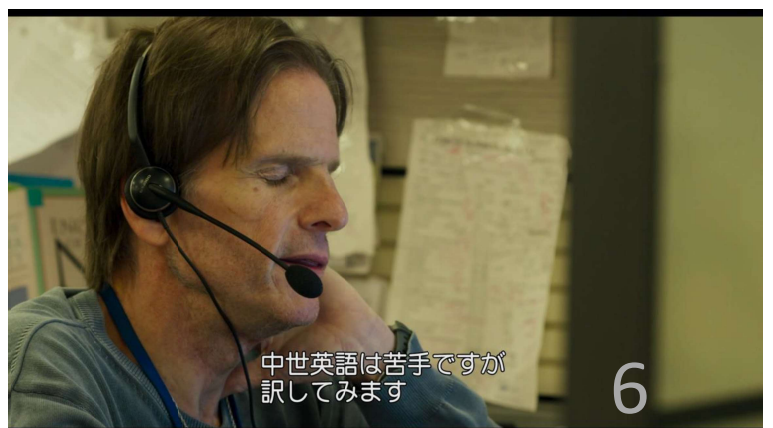
旧来の枠組みを疑う

a. 禁止規定への懷疑

- JLA 公共図書館部会 参考事務分科会参考事務規程（1961）
- 法律がらみ、人生相談、宿題、医療、翻訳なども受けたら（糸賀雅児）

b. ネットとの関係

- 図書館界へネット情報源の取込みが不十分
- ネットからuserをどう取り込むか



中世英語は苦手ですが
訳してみます

レファレンスの技法論

実践されていたが説明は不十分

レファレンスのコツ（骨法）＝
予備知識（浅く広い主題知識＋ツールの知識）
＋考え方（国、時代区分、主題ごとの切り分け法）
＋チップス（ツールのささいな用法上の注意）

7

技法が可視化されなかった

暗黙知だった理由

- a. NDL調査・立法考査局／NDL一般考査部
＝長居→**職人化**
- b. 図書館界で調査**代行業**であるとの誤解
＝やり方を利用者に教えない
- c. 暗黙知の可視化＝手間=>ツールのリスト

可視化してみた

→小林昌樹『調べる技術: 国会図書館秘伝のレファレンス・チップス』 皓星社、2022

ネット連載が元



8

技法開発の必要

- 参照技法それ自体

どういう問題の場合、どう考えて、何を、どんな順番で検索するのか。ツールの組み合わせ

- インタビュー術、コレクション形成論とは違う知識
- 技法の切り出しと名付けの問題

【先行文献】浅野高史、かながわレファレンス探検隊『図書館のプロが教える〈調べるコツ〉：誰でも使えるレファレンス・サービス事例集』（柏書房、2006）

eg. 線香花火の作り方が5類の本に出ず、4類に出た

→「押してもだめなら引いてみる」???

「特定の」であるべき

→私なら「5類でダメなら4類へ」or「4類5類対照法」

9

レファ司書の情報環境

NDL人文課の例 2000s末～

カウンター／事務机



パソコン画面内のデフォ

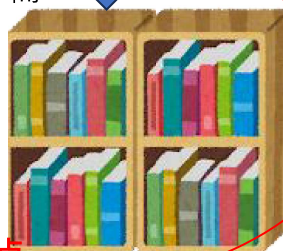
- a. Google
- b. **人文リンク集**
- c. OPAC (NDLオンライン)

大規模書誌
はネットへ
移行 2000s-

レファ本2万冊（0,1,2,7,8,9類）

閉架書庫 4600万冊

使うのは協力
レファだけ



デジ化中

→デジコレ247万点



←この部分がノウハウ・コツだった
予備知識（主題系・ツール系）とチップス

10

ネット系汎用ツールのありかを知る

NDL人文リンク集

レファレンス実行途中で見つけ、
「使える」か「使えない」か判断した
ものの集積

新DBのお知らせ→NDLカレント、文学通信
のメルマガなどがあるが.....

11

NDL人文リンク集

- ネット情報源がひととおりリンク（2006- 公開2011-）
- 多くが無料DB

リサーチ・ナビ 調べものに役立つ情報をまとめています 国立国会図書館

リサーチ・ナビについて ヘルプ サイトマップ English

Google 検索

主題から調べる 資料の種類から調べる テーマ別データベース 「探す」ギャラリー

ホーム / 主題から調べる / 人文リンク集

人文リンク集

2022年7月12日 更新 人文総合情報室 作成

English

人文科学およびジャンル横断的な調べもの（いわゆる総記分野）に役立つデータベースへのリンク集です。
詳細は「[人文リンク集凡例](#)」をご確認ください。

このページでは各分野の代表的なデータベースへのリンクを掲載しています。各ジャンル名をクリックすると、ジャンルごとの詳細なリンク集（詳細画面）が開きます。以下は要約版です。

「」印は、当館契約データベース（館内限定）のため、名称のみを掲載しています。

検索エンジン 蔵書目録 販売目録 和古書・漢籍目録
全文・目次データベース 雑誌記事索引 新聞記事索引
学術一般・百科事典・博物館 図書館・図書館情報学 出版・著作権
哲学・宗教 歴史・地理・地域研究（日本） 歴史のデジタル化画像
歴史・地理・地域研究（世界） 人物・肖像 建築 テレビ・ラジオ
美術 マンガ 写真 音楽 舞踊・演劇 映画 読書・娯楽
言語 日本文学 外国文学 当館作成リンク集（その他）
便利ツール

検索エンジン（もっと見る）

- [Bing](#)
- [Google](#)
- [Internet Archive: Wayback Machine](#)

蔵書目録（もっと見る）

国内

人文リンク集

- [人文リンク集凡例](#)

一覧

検索エンジン 蔵書目録 販売目録
和古書・漢籍目録 全文・目次データベース 雑誌記事索引 新聞記事索引
学術一般・百科事典・博物館 図書館・図書館情報学 出版・著作権
哲学・宗教 歴史・地理・地域研究（日本） 歴史のデジタル化画像
歴史・地理・地域研究（世界） 人物・肖像 建築 テレビ・ラジオ
美術 マンガ 写真 音楽 舞踊・演劇 映画 読書・娯楽
言語 日本文学 外国文学 当館作成リンク集（その他）
便利ツール

主題から調べる：人文科学

- [人文リンク集](#)
- [歴史 \(52\)](#)
- [地理・民族・風俗 \(15\)](#)
- [哲学・宗教 \(11\)](#)
- [芸術・美術・建築 \(31\)](#)
- [音楽 \(27\)](#)
- [舞踊・演劇・映画 \(15\)](#)
- [言語・文学 \(36\)](#)

- NDC順
- 2 階層
- 実際使う物
- 総記以外も汎用性高いもの
- 契約DBも項目化 = 国立図書館のモデル効果
- 注記は最低限採録年代など
- 使えないものははずす = 現役DBのみのリスト

実は、総記と人文（社会科学・自然科学以外は全部）

<https://rnavi.ndl.go.jp/jp/guides/humanitieslinks/index.html>

12

ツールのリスト*

* 専門語では「参考図書紹介」「参考図書の解題書誌」

規模	図書（冊子）を採録するもの	ネット情報源を採録するもの
小 (厳選)	①長澤雅男『レファレンスブック ス』（2020）476点	①NDL人文リンク集（2006, 公開 2011-）約700件（1年に1割入替） ②高鍬裕樹『デジタル情報資源の 検索』（2005-2014） ③大学のDBリンク集、数百？
中	②『日本の参考図書（4版）』（ 2002）7033点 ②-a 日本の参考図書Web版 デモ版 ②-b NDL参考図書紹介 ②-c『日本の参考図書四季版』（ 1967-）	④『データベース台帳総覧』（ 1983-2005）約5000件？ ⑤ 調べ方案内（NDLリサナビ 内） トピック別
大 (網羅的)	③『日本書誌の書誌』（1973- 2006）採録は国初～ca.1970 ③-a『書誌年鑑』（1982-） ④ NDLオンライン の専門情報室開架 分3万	⑥ NDLデータベース・ナビゲシ ョン・サービス （Dnavi）（2002- 2014停止）22,196件（2014現在 21%が公開停止）

13

事例研究 予備知識やチップス いろいろ

どういう場合に、
どう考えて、
何と何を
どんな順番で検索するか

14

質問：「書籍館」という言葉はいつ頃使われなくなったのか？

初出系は日国などレファ本で出るが...
廃語の時期はネット情報源系でない

参考

鈴木宏宗. [明治10年代「図書館」は「書籍館」に何故取って代ったか：「図書」の語誌に見る意味変化と東京図書館における「館種」概念の芽生え](#)
近代出版研究 ([1]):2022 p.186-205

15

検索記事
総数

20世紀メディア情報DB連携時 **30,968,721**件
20世紀メディア情報DB非連携時 **29,003,824**件

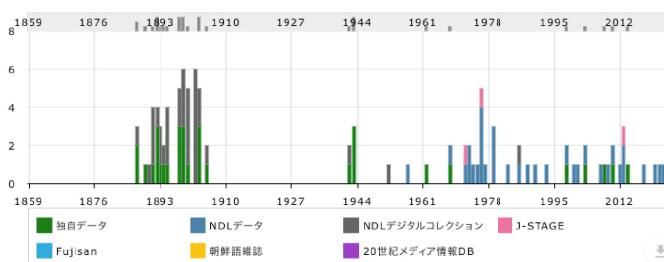
ログアウト

「書籍館」の検索結果一覧

←棒グラフが出る雑索（ざっさくプラス）が便利

トレンドもある程度わかる

ただし題目レベルであること、
採録数3倍化1996-に注意



検索条件を変更する

総件数:102件 表示速度0.0029

東京図書館及大阪書籍館の来観人

無記名

明治20年9月10日,東京経済雑誌,16(384)

最近、[NDLのNgram viewer](#)
が開発(2023)された→



16

表示件数 100件

人文リンク集
雑索の項

雑誌記事索引

2023年9月5日 更新

人文総合情報室 作成

人文リンク集

English

▷ 全般 ▷ 一般雑誌 ▷ 学術雑誌

全般

- 国立国会図書館オンライン (NDLオンライン) キーワード欄で雑誌記事索引・デジタルコレクション目次を一括検索

一般雑誌

- 20世紀メディア情報データベース (インテリジェンス研究所) 1945～1949
※当館未契約
- Fujisan.co.jp (富士山マガジンサービス) 目次
- magazineplus (日外アソシエーツ) ※当館未契約
- 印刷博物館ライブラリー 目次、特集タイトル
- 大宅壮一文庫 雑誌記事索引 (Web OYA-bunko) 1888～ ※当館契約データベース (館内限定)
- キカンシネット (第一資料印刷) 目次、機関誌・広報誌
- 皓星社 雑誌記事索引集成データベース (ざっさくプラス) 明治～ ※当館契約データベース (館内限定)
- 国立国会図書館デジタルコレクション 資料群「雑誌」を選択→目次欄で検索
- 東京都立図書館 目次、特集タイトル

学術雑誌

- CiNii Research (国立情報学研究所)
- Directory of Open Access Journals
- Google Scholar
- Ingenta Connect
- J-STAGE (科学技術振興機構) 電子ジャーナル
- NII-REQ 電子ジャーナルアーカイブ (国立情報学研究所) Springer・Kluwer・OUP・IEEEなど
- ProQuest 基本検索 British Humanities Indexなど ※当館契約データベース (館内限定)
- Web of Science (Clarivate) ※当館契約データベース (館内限定)
- 全国短期大学紀要論文索引PLUS (実践女子大学・実践女子短期大学図書館)

人文リンク集

- 人文リンク集凡例

一覧

検索エンジン 蔵書目録
販売目録 和古書・洋書目録
全文・目次データベース
雑誌記事索引 新聞記事索引
学術一般 百科事典・博物館
図書館・図書館情報学
出版・著作権 哲学・宗教
歴史・地理・地域研究 (日本)
歴史・地理・地域研究 (世界)
人物・肖像 建築
テレビ・ラジオ 美術 マンガ
写真 音楽 舞踊・演劇 映画
雑誌・娯楽 言語 日本文学
外国文学
当館作成リンク集 (その他)
便利ツール

主題から調べる：人文科学

- 人文リンク集
- 歴史 (54)
- 地理・民族・風俗 (15)
- 哲学・宗教 (14)
- 芸術・美術・建築 (32)
- 音楽 (27)
- 舞踊・演劇・映画 (15)
- 言語・文学 (43)

主題から調べる：全般

- 統計 (21)
 - 分野別統計書 (32)
- 人物情報 (38)
- 名簿 (13)

17

予備知識

各種雑索の採録年代

	戦前			戦後
	明治大正	昭和前期	戦中	
a. 元祖雑索 >雑誌記事†				1949 ————— 1996-三倍化 —
b. デジコレ >目次†	1876 —————			c.2010
c. ざっさくプラス *	1868 —————			
d. マガジンプラス *		—————		
e. ウェブ大宅 *	1888 —————			
f. CiNii research		—————		
g. Fujisan >目次†				c. 2004 —
h. 20c メディア情報 *			1945 — 1949	
i. J-STAGE	1875 —————			
j. 国文学論文目録 DB	1905? —————			

注) †は雑誌記事、目次欄を選択しないと雑索として使ったことにならないという意味。*は契約 DB (有料)。実線は採録年代。破線も採録年代だがやや弱い時期。

こういった知識をベテランは自然に身に着けている
リンク集には書ききれない→小林著 (2022) を参照

18

各種雑索の得意ジャンル

	記事件数 (年)	連携**	得意ジャンル(採録誌)	特徴
a. 元祖雑索	1330 万(2019)	-	月刊誌、主要学術誌	過去に分類あり
b. デジコレ >目次	1000 万?(推計)	-	すべて	帝国図書館所蔵誌
c. ざっさくプラス	3103 万(2022)	abfghi	すべて、文芸誌	戦前書誌、総目次
d. マガジンプラス	2036 万(2021)	ab	すべて、経済誌	論文集
e. ウェブ大宅	585 万(2022?)	-	週刊誌、総合誌	人物、キーワード
f. CiNii research	2063 万(2018)	a	学術誌	学術
g. Fujisan >目次	100 万?(推計)	-	女性誌、趣味誌、市販	趣味、生活、スポーツ
h. 20c メディア情報	196 万(2022)	-	すべて、新聞記事も	著者の肩書を採録
i. J-STAGE	539 万(2022)	-	理系学術(文系も)	全文検索可
j. 国文学論文目録 DB	60 万(2019)	-	国文、文芸、書誌学	キーワード

注) **データの取り込み先。それも引ける。

記事件数はよくわからないものも多い DBは凡例が弱い

19

事例

質問：〈セルフ・レファレンス〉を提唱した都立図書館員の“**サイトウ・フミオ**”さん、いつ亡くなったんだっけ？

業界でちょっと有名だった人の履歴

参考

私のネット連載

「[ネット上で確からしい人物情報を拾うワザ——
国営の典拠DBを人名事典として使う](#)」

「[デジコレの2022年末リニューアルをチェック！
ファミリー・ヒストリー編](#)」

「[ネット上で確からしい人物情報を探すワザ 現代人編](#)」

20

人物調査の三類型

	例えば	記載がある資料 (人物文献・人名事典類)	探索ツールや 人物文献の性格
a 有名人	歴史上の偉人 大物政治家 有名タレント 大作家 大官僚	人名事典 一般年鑑 (の付録人名編) 紳士録 伝記 列伝	総記 (汎用) 系の代表的なもの レファレンス事典 (日外アソシエーツ)
b 限定的有名人 (半有名人)	政治家・官僚 学者・業界人 社長・重役 タレント 地方名士 著作者 犯人・被害者	紳士録 (人名鑑) 専門事典、専門人名事典 県別百科、地方人名事典・紳士録、淑女録 職員録 (日本政府の) 著作権台帳・NDL名称典拠 新聞紙・週刊誌、官報	専門別・業界別 地域別 同時代の汎用系ツール レファレンス事典 (日外アソシエーツ)
c 無名人	普通の人 市井人 一般ピープル	電話帳 名簿 (職員、同窓会など) 住宅地図 過去帳 (公開反対運動あり) 戸籍 (除籍簿。閲覧制限→直系子孫などに限定)、兵籍簿	参考図書と見なされづらいもの 非公刊、灰色文献 公文書、私文書

21

限定的有名人を調べる

Web NDL Authorities

国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス

キーワード検索 | 記号検索 | 異綴り検索 | English | ヘルプ

斎藤, 文男, 1950-2013

すべて | 見るのみ | 関連するのみ

検索

検索結果に戻る

斎藤, 文男, 1950-2013

ID	00798304
典拠種別	個人名
skos:inScheme	
名称/タイトル	斎藤, 文男, 1950-2013
xiprefLabel	
名称/タイトルのカナ読み	サイトウ, フミオ, 1950-2013
nl:transcription@ja-Kana	
名称/タイトルのローマ字読み	Saito, Fumio, 1950-2013
nl:transcription@ja-Latin	
生年	1950
rca:dateOfBirth	
没年	2013
rca:dateOfDeath	
関連リンク/出典	NDL00798304 (VIAF)
skos:exactMatch	
出典	資料提供としてのレファレンス・サービス / 斎藤文男 編著 本人回答 実践型レファレンス・サービス入門, 2019.5 (没年)
編集履歴	没年追加 (20190623)
skos:historyNote	
作成日	2000-03-02
dct:created	
最終更新日	2019-06-28T13:27:15
dct:modified	
外部サイトへのリンク	Wikipediaで検索を行う ※Wikipediaの検索結果の一覧が表示されます。

他形式のデータ

[RDF/XML形式](#), [RDF/Turtle形式](#), [JSON-LD形式](#)

国立国会図書館のサービス

以下のリンクボタンから国立国会図書館オンラインで検索ができます。

著者名検索

件名検索

- 本を書いた人なら全員→NDL典拠に
<https://id.ndl.go.jp/auth/ndlsh>
- 「よみ」だけでも引ける
- 姓名はスペースで切り離して

一般人名辞典には「超有名人」しか載らない...

22

レファレンス難易度の時代区分 (日本限定)

	前近代	戦前		戦後		
	江戸時代	明治大正	昭和前期	昭和後期	情報化	ネット時代
年代	～1868	～1923	～1945	1945～	ca.1985～	ca.1995～
レファ 難易度	ある意味 容易	相当困難	そこそこ 困難	普通	比較的 容易	容易
要因	質問の出 典が限定 的	関東大震 災	空襲	全国書誌 や図書館 の発達	デジタル ボーンの テキスト	HP, ブログ など

常識すぎて、ほとんど書かれない
前近代が容易なのに注意

23

(おまけの議論)

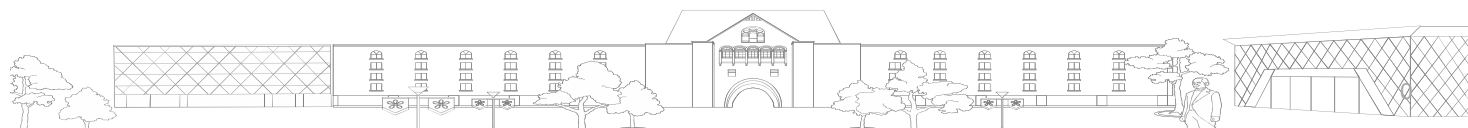
- ・人文リンク集（広汎なリンク集）＋レファレンス
チップスと、パスファインダーの集成はどう違
う？
- ・主題は割合と小さいトピック≡件名
eg. 書評を見つけるには？
- ・そもそも該当するパスファインダーが無かったら
どうすれば
→汎用ツールを特定の使う
eg. 雑索を書評作品として使う
- ・各大学図書館で創っているリンク集の比較研究が
必要
- ・『調べる技術』の続き
→[https://www.libro-](https://www.libro-koseisha.co.jp/webcolumn/reference_tips2_01/)
[koseisha.co.jp/webcolumn/reference_tips2_01/](https://www.libro-koseisha.co.jp/webcolumn/reference_tips2_01/)



24

近畿大学中央図書館 学修支援とレファレンスサービス

近畿大学中央図書館学生センター
レファレンス課
上野 芳重

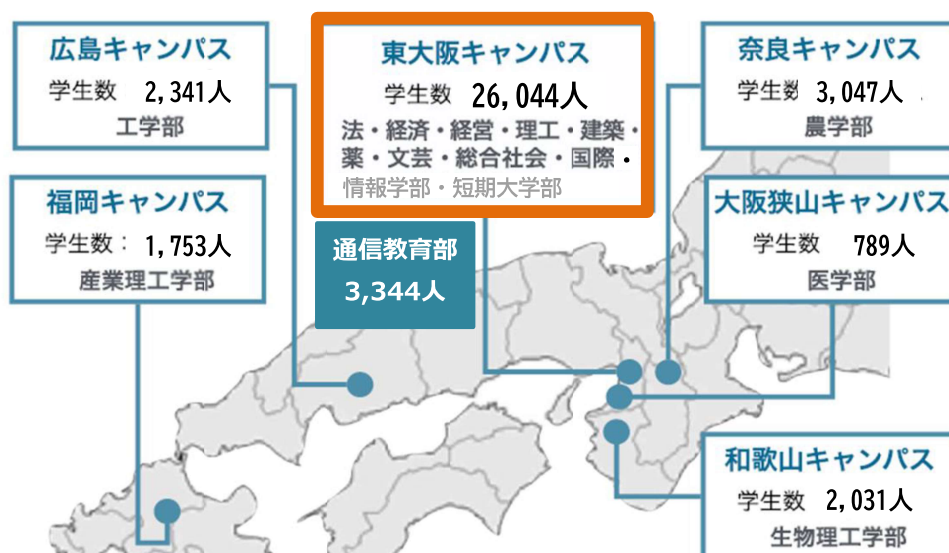


本日の内容

1. 近畿大学中央図書館について
2. 学修支援：情報リテラシー教育/サービス
3. 本館レファレンスサービスの現状
4. 利用相談統計システムの活用
5. レファレンス協同データベースとの連携

1. 近畿大学中央図書館について

2



近畿大学 6つのキャンパスに約3万5千人が学ぶ。
東大阪キャンパス（人文・社会・自然科学）
 10学部・短期大学部・6研究科

中央図書館：中央館と4つの分室



4

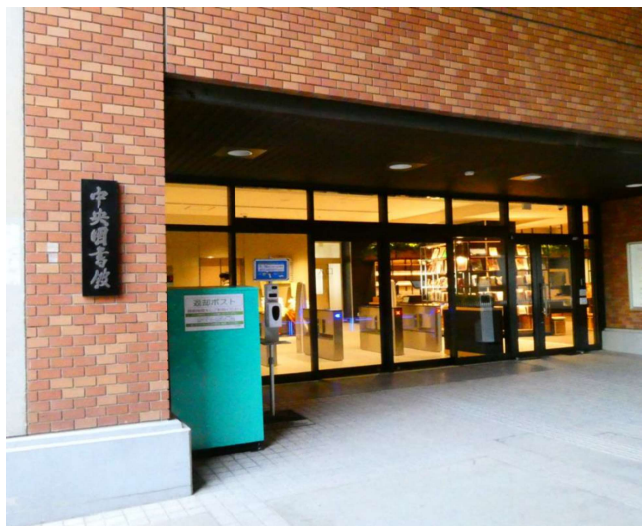
中央図書館概要：入館者減・電子資料増

	2022年度	2019年度
蔵書冊数	約140万冊	約150万冊
所蔵雑誌タイトル数	約11,000種 ↓	約13,000種
電子ジャーナル数	約84,000誌 ↑	約53,000誌
開館日	年間315日	年間324日
入館者数	約128万人 ↓	約180万人
貸出冊数	約16万冊 ↓	約28万冊
電子ブック利用	約13万冊 ↑	約1.5万冊

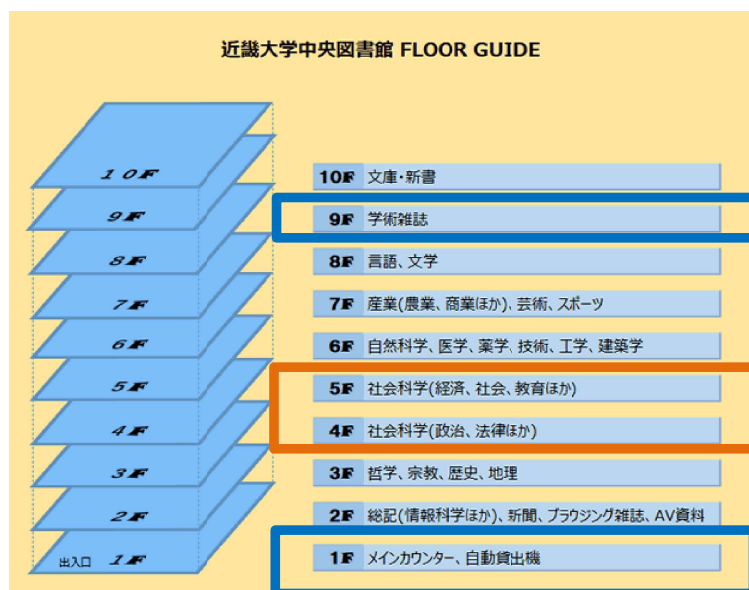
※2022年度、契約電子ブックの提供冊数は、約1万6千冊。

5

中央図書館：カウンターは4つの階に



※2022年3月中央館改修：多階層図書館へ



6

2.学修支援

学修支援：情報リテラシー教育/サービス

(1) 図書館ガイダンス

- 動画、配布資料PDFデータを提供（2020年～）
- 図書館利用の基礎的内容を提供。初年次教育から全学年対象に転換。

(2) オンデマンド講習会

- 教員のオーダーに沿った内容で実施。授業・ゼミでDB利用等レクチャー。
- 対面、オンラインのハイブリッドな学修環境に対応

(3) 自由参加型セミナー

- 論文検索方法、本学契約DBのセミナーなどを実施。
- オンライン開催から、動画提供へ。今後、対面開催も検討中

学修サポートデスク

- 大学院生（LA；ラーニングアドバイザー）による支援
- 対面、オンライン共に実施。セミナー（対面・オンライン）も開催

8

(1) 図書館ガイダンス 近畿大学限定公開YouTubeで動画公開

教員からの
1本の電話

「一番簡単な方法
で提供してほしい。」

初年次教育授業
との連携で視聴
回数は安定。

しかし、授業カリ
キュラムに取り込
めないと、どんな
に良い動画も視聴
されない。



9

図書館ガイダンス：動画本数・再生回数

	2020 コロナ期	2021 コロナ期	2022 ハイブリッド期
動画 本数	15	19	↑ 31
動画：基本編 再生回数	5,476	4,732	↓ 2,466
動画：剽窃しない引用作法 再生回数	—	1,435	↑ 2,281
全動画 再生回数	27,966	33,437	↓ 21,577

各学部へ教務委員長へのヒアリングや、各教員アンケートなどから、ブラッシュアップを続ける。→HP上の動画公開、教員連携による理系向けレポートの書き方動画提供を予定。

10

様々な工夫で動画視聴を効果的に：学習効果UP

動画だけだと
寝てしまう・・・

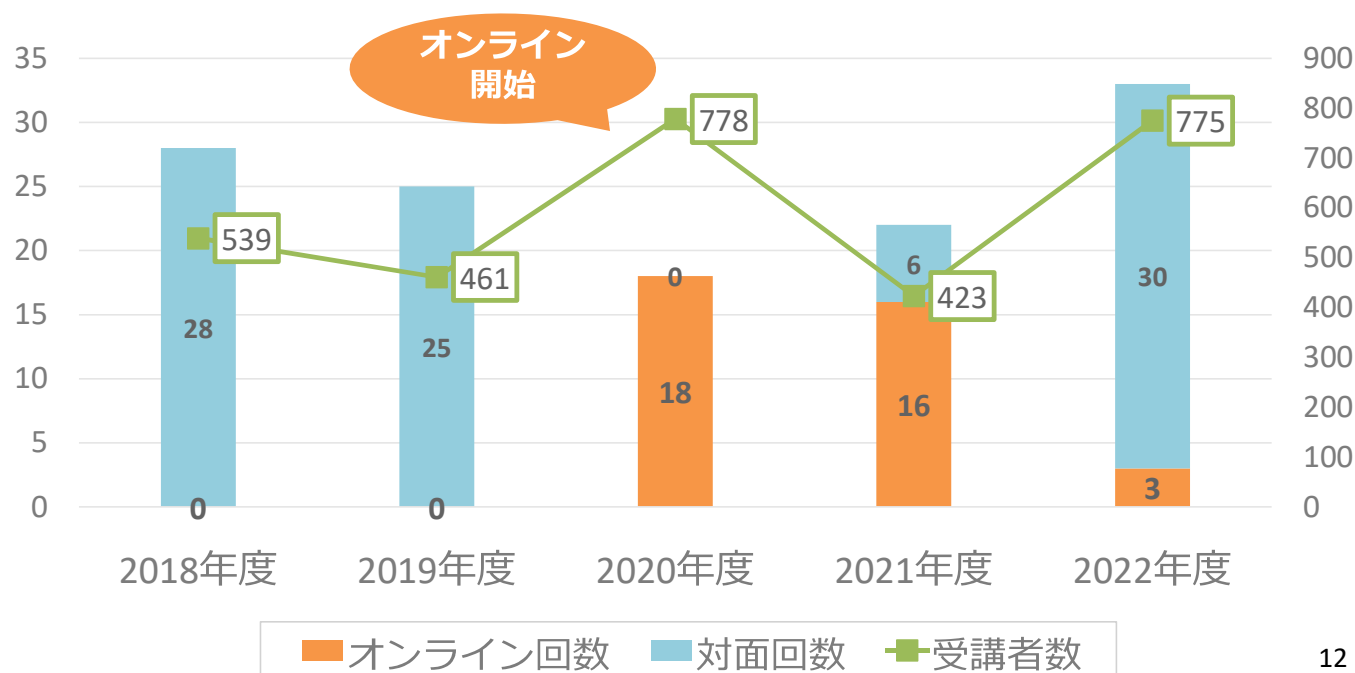


- ・ 解説資料PDF（動画とセットで提供）
- ・ **理解度テスト**（Googleフォーム）
- ・ 剽窃チェックテスト（Googleフォーム）
- ・ **検索課題**
 - ①OPAC、日経テレコンの検索などPC演習
 - ②図書館でミッションにチャレンジ
（図書館を実体験する課題）

※終了後に各学部・教員ごとの集計データも提供
※学生からの生の声をピックアップ

11

(2) オンデマンド（授業出張型）講習会



12

(2) オンデマンド講習会：事例紹介

理工学部 社会環境工学科「総合演習Ⅰ」

- ・ 2017年より**中央図書館と連携した授業**を展開
- ・ 前期15回授業で、文献調査、現地調査、問題発見、対策提案、および評価などを行う**実習（課題解決）型授業（PBL科目）**
- ・ 2年生**約110名の必修授業**
- ・ 授業5回目（2コマ）を**情報リテラシー演習**として、レファレンス課による**オンデマンド講習会**を実施
- ・ 学生作成の文献調査票へコメントも行う（学生発表資料の連携）

図書館が
授業全体に
関わる

※参考 近畿大学シラバス 総合演習Ⅰ

<https://syllabus.itp.kindai.ac.jp/customer/Form/SY01010.aspx?syllabusno=2211500274>

松井 一彰ほか「チームによる実践能力と情報リテラシーを向上させるPBL教育の試み」 工学教育 68 (6), 6_55-6_61, 2020

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsee/68/6/68_6_55/_pdf/-char/ja

13

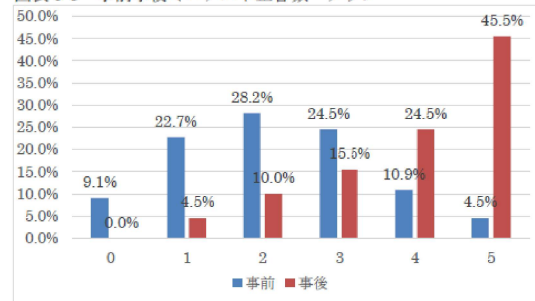
事前事後テスト：学習者がどれくらい知識を得たか

理工学部 社会環境工学科「総合演習Ⅰ」

図表 9-3 事前事後ミニテスト正答数 表（含む平均正答数）

正答数 集計 正答数／5問	事前		事後	
	比率（％）	人数（人）	比率（％）	人数（人）
0／5	9.1%	10	0.0%	0
1／5	22.7%	25	4.5%	5
2／5	28.2%	31	10.0%	11
3／5	24.5%	27	15.5%	17
4／5	10.9%	12	24.5%	27
5／5	4.5%	5	45.5%	50
計		110		110

図表 9-3 事前事後ミニテスト正答数 グラフ



全問正解（正答数5/5）事前テスト4.5% → 事後45.5%に増加
講習会によって知識が得られていることを検証できた

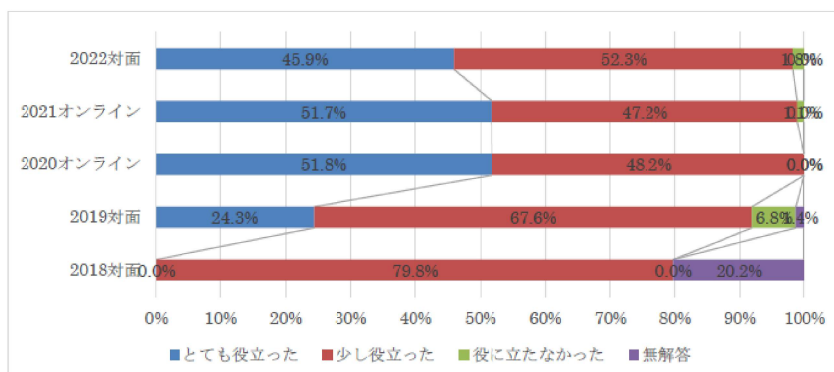
- 「2022年度理工学部社会環境工学科総合演習Ⅰ-受講後アンケート集計報告」より抜粋
- 事前事後テストは、講習会開始前、講習会終了後に同じ内容のテストを実施。

14

授業後アンケート：学習成果の測定 1 関連性・動機付け

理工学部 社会環境工学科「総合演習Ⅰ」

図表 5-2 役立ったかどうか 経年比較



長く学習に影響を
与えることを検証

問

情報リテラシー演習は、その後の
授業や学習に役に立ちましたか

答

ほとんどの受講者が役立ったと回
答。約50%は「とても役立った」
と評価。

- 「2022年度理工学部社会環境工学科総合演習Ⅰ-受講後アンケート集計報告」より抜粋
- 授業後アンケートは、講習会実施日（5/2）ではなく、授業最終日（7/25）に行っている。

15

授業後アンケート：学習成果の測定 2 利用行動の変化

理工学部 社会環境工学科「総合演習Ⅰ」

図表 6-1 「役立ったこと」経年比較

(設問 8 図書館ガイダンス後、「これは役立った」と思うことがあればチェックしてください。(複数回答可))

選択内容	2018(N=89) 対面		2019(N=74) 対面		2020(N=114) オンライン		2021(N=89) オンライン		2022(N=109) 対面		差分 (対2021)
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
図書館についてわかった	37	50.0%	35	39.3%	40	35.1%	30	33.7%	62	56.9%	23.2%
調べ方がわかった	50	67.6%	44	49.4%	89	78.1%	75	84.3%	74	67.9%	-16.4%
データベースについてわかった	27	36.3%	23	25.8%	58	50.9%	50	56.2%	62	56.9%	0.7%
学外からの電子コンテンツの利用方法がわかった					36	31.6%	32	36.0%	36	33.0%	-2.9%
雑誌についてわかった	9	12.2%	15	16.9%							0.0%
電子ブックについてわかった	23	31.1%	9	10.1%	15	13.2%	18	20.2%	20	18.3%	-1.9%
電子ジャーナルについてわかった	11	14.9%	29	10.1%	10	8.8%	14	15.7%	15	13.8%	-2.0%
論文についてわかった	23	31.1%	9	10.1%	35	30.7%	20	22.5%	27	24.8%	2.3%
OPACの使い方がわかった	30	40.3%	10	11.2%	58	50.9%	42	47.2%	46	42.2%	-5.0%
引用についてわかった	16	21.6%	7	7.9%	42	36.8%	36	40.4%	30	27.5%	-12.9%
参考文献の書き方がわかった	12	16.2%	11	12.4%	47	41.2%	33	37.1%	34	31.2%	-5.9%
統計についてわかった							8	9.0%	20	18.3%	9.4%
その他	0	0.0%	3	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%
無回答	3	4.1%	18	24.3%	2	1.8%	1	1.1%	4	3.7%	2.5%

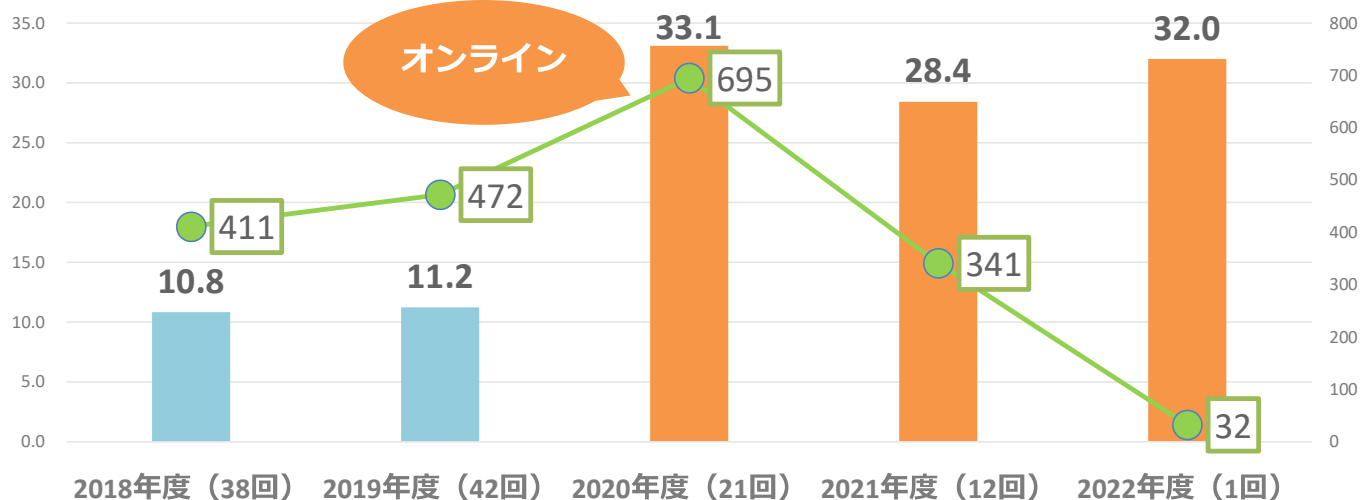
学習者の変化で
学習成果を測る

- ・ 具体的に何に役立ったか、何がわかったかを測定。
- ・ 「調べ方がわかった」が、経年比較でも最も高い。
- ・ 対面時には、図書館へ直接出向く課題も実施。

16

(3) 自由参加型セミナー

対面：集客の悩み→オンラインで参加増→オンタイムから動画→？？



■ 1回あたり参加者数 ● 受講者数

※ () 内はセミナーの実施回数

17

3.本館レファレンスサービスの現状

18

改修前 利用相談（レファレンス）カウンター

3階：相互利用・自然科学



4階：人文・社会科学



19

改修後 レファレンスデスク

4階：政治学・法学

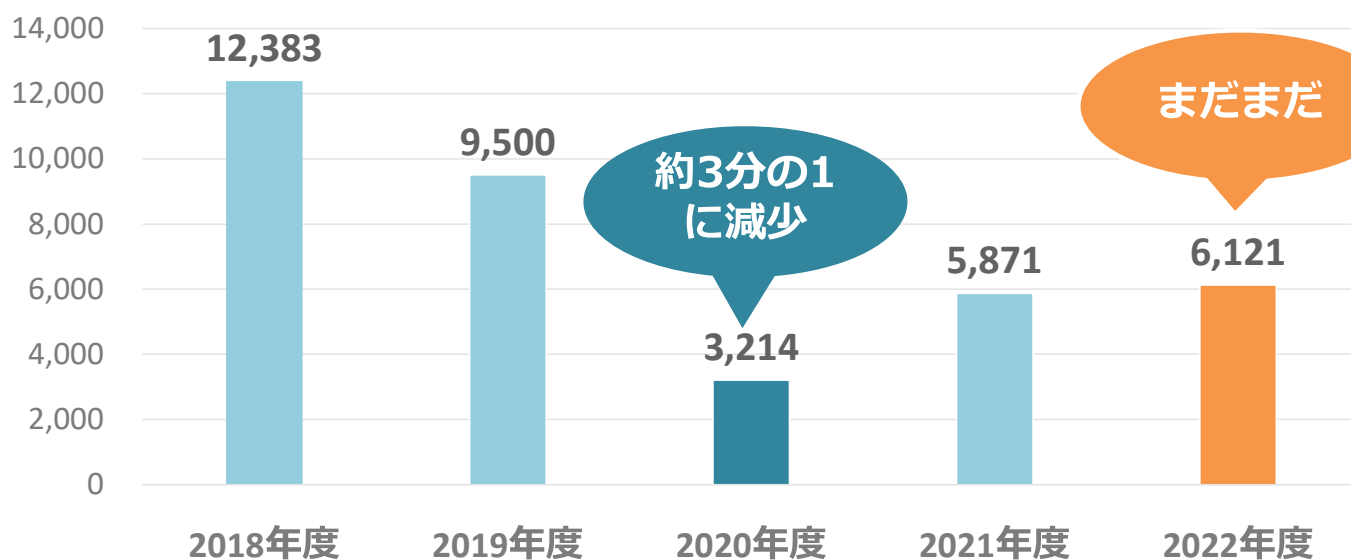


5階：経済・経営・社会学



20

本館レファレンス件数（過去5年間）



※近畿大学中央図書館利用相談統計システムによる件数。日本図書館協会に提出した件数とは異なる。
 ※2022年度はコロナ前比で、約3分の2までに件数がもどった。

21

本館レファレンスサービス

- ・カウンター（対面）
 - ・オンライン（Zoom）事前申込制（2020年～）
 - ・メール
 - ・電話・Slack（学内者専用ツール）
 - ・チャットボット（Slack版）（2022年～）※有人未対応
- ・学修サポート（引用作法・調べ方案内・学部別図書館入門）
 - ・YouTube動画（図書館ガイダンス）
※コロナ期は非来館利用支援を重視

22

チャットボット開設（2022年10月～）



開館時間やデータベース
利用方法まで、いつでも
チャットボットで解決！



問い合わせ先：近畿大学中央図書館レファレンス課

- ・本学の全学生・教職員が利用できるslackで実施。
- ・本学全学部のチャットボット導入にあわせて中央図書館チャットボット開設
- ・内容はHPのFAQをもとに作成。

利用実績 ※人数はのべ人数

	会話件数	利用人数
2022年度	6,760件	5,789人
2023年4月～9月	9,203件	8,352人

- ・開館時間など定型的な質問が24時間対応可能に。
見えなかった利用を可視化。
※有人対応は、今後の課題。

23

4.利用相談統計システムの活用

利用者が訪れるカウンターは、どこでも「レファレンス」の萌芽を持つ。図書館では、カウンターで発せられる小さな問いが掬い上げられ、適切なサービスが提供されるべきである。

レファレンスサービスは図書館サービスの中核であり、大学図書館においては学習・教育支援、研究支援の中核である。（「第5回レファレンス大賞 応募資料」）

24

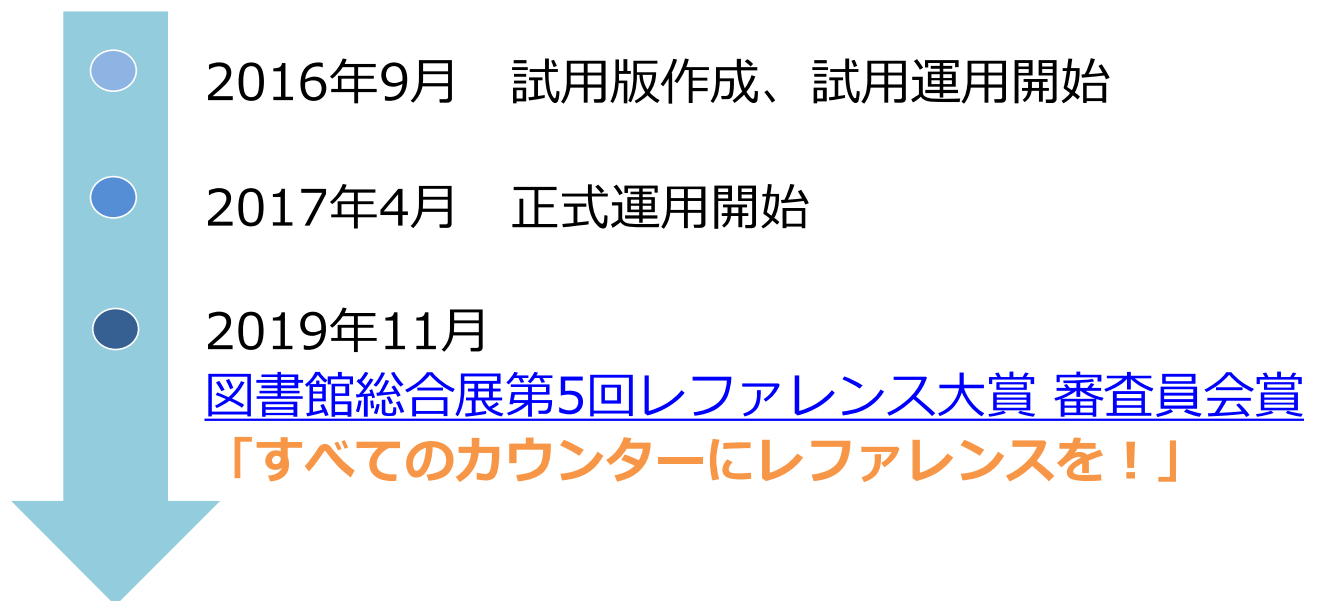
利用相談統計システム：何ができるか

- ・ 全カウンタの記録
- ・ 担当者全員が全データにアクセスできる
- ・ 帳票類（日次、統計）の簡易な出力
- ・ プラットフォームを活かし全担当者を育てる
→フィードバックによるOJT

プラットフォーム構築により
サービス担当者全員がレファレンスを意識

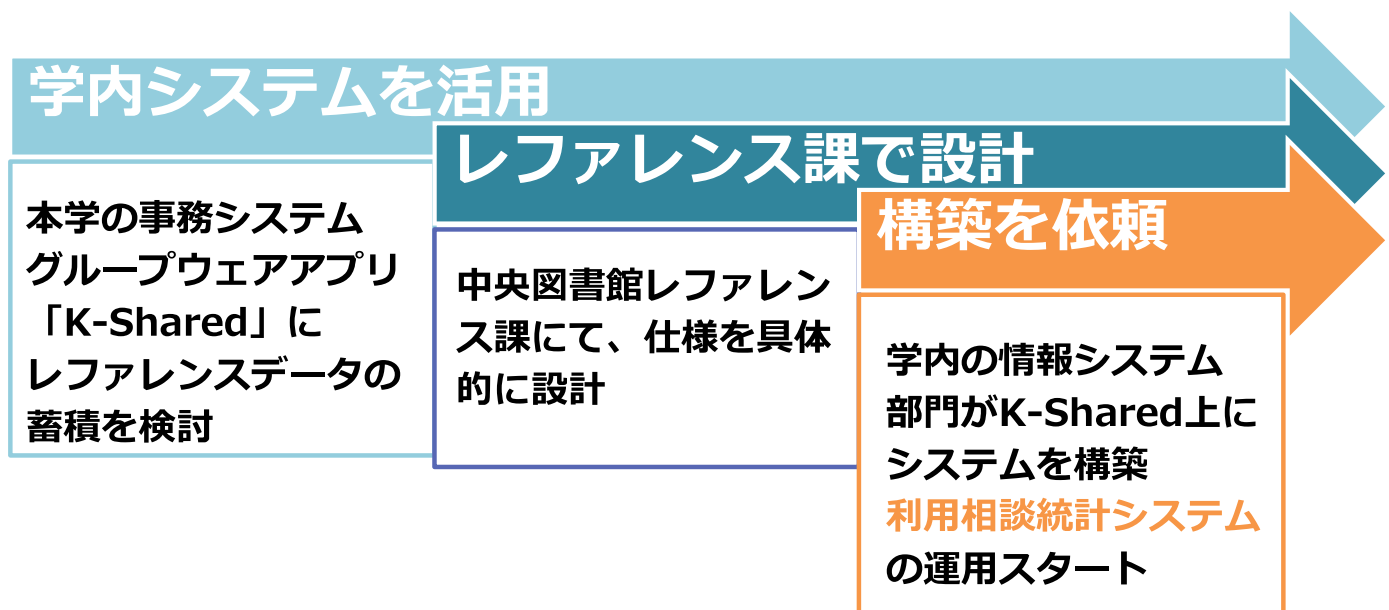
25

利用相談統計システム：開発から現在まで



26

開発・構築を学内で：費用は0円



27

サービス業務担当者＝図書館のひと

15 カウンター

	館・分室等	カウンター	担当者
中央図書館	中央館	1階入館ゲート	委託A社
		1階メイン（貸出・返却）カウンター	委託A社
		相互利用	委託A社
		4階レファレンスデスク	委託A社
		5階レファレンスデスク	職員
		9階雑誌カウンター	委託A社
		メールで利用相談	職員
	理工分室	カウンター	委託A社
	文芸分室	カウンター	委託A社
	法科大学院分室	カウンター	委託A社
	ビブリオンシアター	1階北	委託B社
		1階南	委託B社
		2階北	委託B社
		2階南	委託B社
		視聴覚	委託B社

※レファレンスデスク（利用相談専門）、相互利用以外のカウンターは、基本的にはクイックレファレンスのみを担当する。

※レファレンス課職員5名、委託2社の約60名が勤務。委託のレファレンス・相互利用担当者は4名。 28

入力項目のデータ設計

項目名	入力	入力ルール(注意事項)
1 No.	必須	YYYYMM+00000。自動取得。変更不可。
2 年/月/日	必須	自動取得。後ほど記載した場合は、必要に応じて修正する。
3 曜日	必須	自動取得。後ほど記載した場合は、必要に応じて修正する。
4 時刻	必須	自動取得。後ほど記載した場合は、必要に応じて修正する。
5 カウンタ区分	必須	各カウンターは、デフォルトで設定済。選択により、変更可。
6 利用者区分	必須	学部生、大学生、教職員、学外者から選択。
7 種別	必須	利用案内（利用指導）、事項調査（書誌・文献調査）、所蔵調査（所在調査）から選択。
8 レベル	必須	レベルの内容については、別紙を参照。
9 内容区分1	必須	内容区分については、別紙を参照。1つのレファレンスに複数の内容がある場合には、内容区分2も選択する。
10 内容区分2	選択	内容
11 NDC他	選択	図書（冊子体）の場合選択する。
12 近大INDEX（NOAH/DONDEN）	選択	ビブリオンシアターの場合、選択する。（7CHA/8TOPIA自動設定）
13 資料種別	選択	図書（冊子体）以外の資料について、選択する。電子資料の場合は、こちらを選択する。当該資料のNDC（主題分野）が明らかなき場合は、NDCも併せて選択する。
14 質問：内容詳細（自由記述欄）	自由記述	自由記述。文字数の制限はないが、出力を考慮して記載する。具体的な資料名、請求記号などを、必要に応じて記入する。
15 回答：内容詳細（自由記述欄）	自由記述	自由記述。文字数の制限はないが、出力を考慮して記載する。具体的な資料名、請求記号などを、必要に応じて記入する。
16 記入者	必須	入力IDで、自動入力設定可能。
17 レファ協	自由記述	担当者が自身でレファレンス協同データベースに入力を予定していることを記載する。入力後は、管理番号（Control number）を記載する。

新規近畿大学中央図書館 利用相談統計の文書を作成

日次(*)	2023 年 7 月 6 日 木 10 時 47 分
カウンタ区分(*)	☐ 1F Main ☐ 1F Gate ☐ 4F RefD ☒ 5F RefD ☐ 9F RefD ☐ 相互利用 ☐ メールで利用相談 ☐ 理工分室 ☐ 文芸分室 ☐ 法科大学院分室 ☐ BT 1階北 ☐ BT 1階南 ☐ BT 2階北 ☐ BT 2階南 ☐ BT 2階語学 ☐ 3F Main ☐ 3F Gate ☐ 3F Ref ☐ 4F Ref ☐ 5F Sack
利用者区分(*)	☐ 学部生 ☐ 大学院生 ☐ 教職員 ☐ 学外者
所属学部	
学年	☐ 1年 ☐ 2年 ☐ 3年 ☐ 4年 ☐ 5年 ☐ 6年
性別	☐ 男 ☐ 女
種別(*)	☐ 利用案内 ☐ 事項調査 ☐ 所蔵調査
レベル(*)	☐ 1. クイック ☐ 2. 当日で回答可 ☐ 3. 複数日 ☐ 9. 未完了
内容区分1(*)	
内容区分2	1.1 配置場所の確認・案内・見方(利用者調査済) 1.2 カウンタ・施設(図書館外含む)の案内 2.1 貸出方法・期間などの規則、予約方法 2.2 書庫の利用 3.1 資料の探し方(OPACなど) 3.2 資料・資料の場所を探してほしい(利用者調査済) 4.1 相互利用への案内 5.1 事項調査(○○について) 6.1 データベースの使い方 6.2 Myライブラリーの使い方 6.3 パソコンの使い方 6.4 印刷したい 6.5 コピーしたい 7.1 就活について 7.2 卒論について 7.3 レポートの書き方・プレゼンなど 9. その他
NDC他	
近大INDEX (NOAH/DONDEN)	
7CHA/8TOPIA	
資料種別	
質問: 内容詳細	

☐ 新規・タイムラインに通知する

登録 下書き保存 キャンセル

可能な限り、自動入力、データ選択にして、**省力化**

データ入力は、質問、回答が中心

30

日付	2018年10月09日 (火)
カウンタ区分	全カウンタ

	学部生	大学院生	教職員	学外者	計
利用案内(利用指導)	30	1	3	0	34
事項調査(書法・文献調査)	1	1	0	0	2
所蔵調査(所在調査)	16	1	1	0	18
計	47件 (32人)	3件 (1人)	4件 (3人)	0件 (0人)	51件 (36人)

利用レポート一覧

カウンタ区分	種別	利用者区分	種別	内容区分1	内容区分2	NDC	近大INDEX (NOAH/DONDEN)	7CHA/8TOPIA	資料種別	質問: 内容詳細	回答: 内容詳細	レベル	備考
3F Ref	09:40	学部生	利用案内	1.1 配置場所の確認・案内・見方(利用者調査済)	1.2 カウンタ・施設(図書館外含む)の案内	03 物理学			2.1 貸出方法・期間などの規則、予約方法	最新の書籍が貸出されたため、種別変更の旧版を利用すること。10時までに到着し、旧版の本を返す。次にその本をOPACで検索して借りかきをしてください。	最新の書籍が貸出されたため、種別変更の旧版を利用すること。10時までに到着し、旧版の本を返す。次にその本をOPACで検索して借りかきをしてください。	1. クイック	1.1
BT 2階南	10:25	学部生	利用案内	3.1 資料の探し方(OPACなど)	3.2 資料・資料の場所を探してほしい(利用者調査済)				Myライブラリーの使い方	Myライブラリーの使い方について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	Myライブラリーの使い方について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	1. クイック	
3F Main	10:50	教職員	利用案内	6.1 データベースの使い方	6.2 Myライブラリーの使い方				データベースの使い方	データベースの使い方について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	データベースの使い方について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	2. 当日で回答可	
3F Ref	11:25	学部生	利用案内	6.1 データベースの使い方	6.2 Myライブラリーの使い方				データベースの使い方	データベースの使い方について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	データベースの使い方について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	1. クイック	1.1
3F Ref	11:57	学部生	利用案内	2.1 貸出方法・期間などの規則、予約方法	2.2 書庫の利用				貸出方法・期間などの規則、予約方法	貸出方法・期間などの規則、予約方法について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	貸出方法・期間などの規則、予約方法について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	1. クイック	
BT 2階南	12:03	学部生	利用案内	2.1 貸出方法・期間などの規則、予約方法	2.2 書庫の利用				貸出方法・期間などの規則、予約方法	貸出方法・期間などの規則、予約方法について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	貸出方法・期間などの規則、予約方法について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	1. クイック	
3F Ref	12:30	学部生	利用案内	3.1 資料の探し方(OPACなど)	3.2 資料・資料の場所を探してほしい(利用者調査済)				資料の探し方(OPACなど)	資料の探し方(OPACなど)について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	資料の探し方(OPACなど)について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	1. クイック	1.1
3F Ref	12:40	学部生	利用案内	1.2 カウンタ・施設(図書館外含む)の案内	1.1 配置場所の確認・案内・見方(利用者調査済)				カウンタ・施設(図書館外含む)の案内	カウンタ・施設(図書館外含む)の案内について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	カウンタ・施設(図書館外含む)の案内について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	1. クイック	
BT 2階南	13:07	教職員	利用案内	2.1 貸出方法・期間などの規則、予約方法	2.2 書庫の利用				貸出方法・期間などの規則、予約方法	貸出方法・期間などの規則、予約方法について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	貸出方法・期間などの規則、予約方法について、他大学の文庫が欲しいと、相互利用を申し込むにはどうしたらいいか?	1. クイック	1.1

日々の質問・回答を共有。全データを検索、アクセスできる。

利用者情報との紐づけ、学習情報との連携など、今後の検討課題。

日次帳票 各カウンタ、全カウンタの集計がワンボタンで出力できる。
内容を評価し、対応に誤りや、早急な対応が必要な場合、すぐに情報を共有。

31

フィードバックでOJT：記録するから検証できる

質問：内容詳細	(スマホでCinii Researchの画面を見せながら) この論文はありますか? 論題：「見えない衣服一下着—についての関心の実態とその」 完甘 直隆, 五藤 睦子 収録刊行物：繊維製品消費科学 51(2), 113-127 (2010)
回答：内容詳細	OPACで所蔵確認。 近大での所蔵が無いため、相互利用をご説明。 他大学図書館から文献の複写依頼をし、論文をコピーした 利用の際に複写料金と郵送料が必要であることをご説明。 一度利用手続きを含め、中央図書館のレファレンスカウンターへお越しください。 =責任者フィードバック= 当該論文はウェブで全文PDFが公開されているものでした。 Ciniiの画面からは「DOI」と書かれたボタンから提供元のJ-STAGEへとぶことができます。 全ての論文ではありませんが、Ciniiには一部本文へのリンクが貼られているケースがありますので確認してみてください。 https://www.jstage.jst.go.jp/article/senshoshi/51/2/51_113/_pdf/-char/ja

「全てのカウンターに
レファレンスを！」の
目標に、少しでも近づ
けるように。

サービス担当者は事例を読んで**スキルアップ**。ただし、限界も。

32

5.レファレンス協同データベースとの連携

近畿大学中央図書館とレファ協

2005年度より参加。15年連続で国立国会図書館より御礼状を授与される（[プレスリリース](#)で図書館広報に活用）

レファレンス事例 (件)	調べ方マニュアル (件)	特別コレクション (件)	アクセス数 (一般公開) 累計 (件)
7,531	108	3	1,880万

1件1件の
積み重ね

※近畿大学中央図書館 令和4（2022）年12月現在
レファレンス協同データベース 公開データ件数と一般公開累計アクセス数

34

レファ協：本館事例アクセス数トップ10（2020-2022）

No	2020		2021		2022	
	質問	アクセス数	質問	アクセス数	質問	アクセス数
1	やむを得ず「孫引き」をする場合の引用法を知りたい。	62,300	9.11のテロが起きた時間(日本時間)を知りたい。	69,509	紙媒体の新聞、インターネット上の新聞、データベースの新聞記事...	67,192
2	官報を無料で検索したい。	30,287	やむを得ず「孫引き」をする場合の引用法を知りたい。	68,376	映像作品（映画/ドラマ/アニメ）の内容を論文に記載する際の引...	44,574
3	9.11のテロが起きた時間(日本時間)を知りたい。	25,695	紙媒体の新聞、インターネット上の新聞、データベースの新聞記事...	37,021	やむを得ず「孫引き」をする場合の引用法を知りたい。	36,992
4	統計法違反で懲役刑が適用された過去の事例について調べたい。	20,315	「瓢箪から駒」のことわざの成り立ちを知りたい。また伊達政宗が...	29,521	9.11のテロが起きた時間(日本時間)を知りたい。	22,079
5	化学物質のデータやCAS登録番号を調べたい。	15,903	官報を無料で検索したい。	29,405	官報を無料で検索したい。	18,472
6	太平洋戦争時のアメリカ軍の兵力の総数、できればヨーロッパ戦線...	14,979	映像作品（映画/ドラマ/アニメ）の内容を論文に記載する際の引...	29,332	「巨人の肩の上に立つ」という言葉のいわれを知りたい。	12,500
7	レポート・論文を書くためのアカデミック・ライティングについて...	14,944	太平洋戦争時のアメリカ軍の兵力の総数、できればヨーロッパ戦線...	15,603	日本語以外の言語の資料を、最初から自分で翻訳して引用すること...	12,472
8	「巨人の肩の上に立つ」という言葉のいわれを知りたい。	12,236	「巨人の肩の上に立つ」という言葉のいわれを知りたい。	12,124	太平洋戦争時のアメリカ軍の兵力の総数、できればヨーロッパ戦線...	10,891
9	ありがとうの意味で使われる、方言「だんだん」について知りたい...	11,983	ありがとうの意味で使われる、方言「だんだん」について知りたい...	11,388	ヨモツヘグイについて知りたい。	9,518
10	「瓢箪から駒」のことわざの成り立ちを知りたい。また伊達政宗が...	10,806	化学物質のデータやCAS登録番号を調べたい。	10,749	卒業論文を引用することが出来るのか知りたい。	8,748

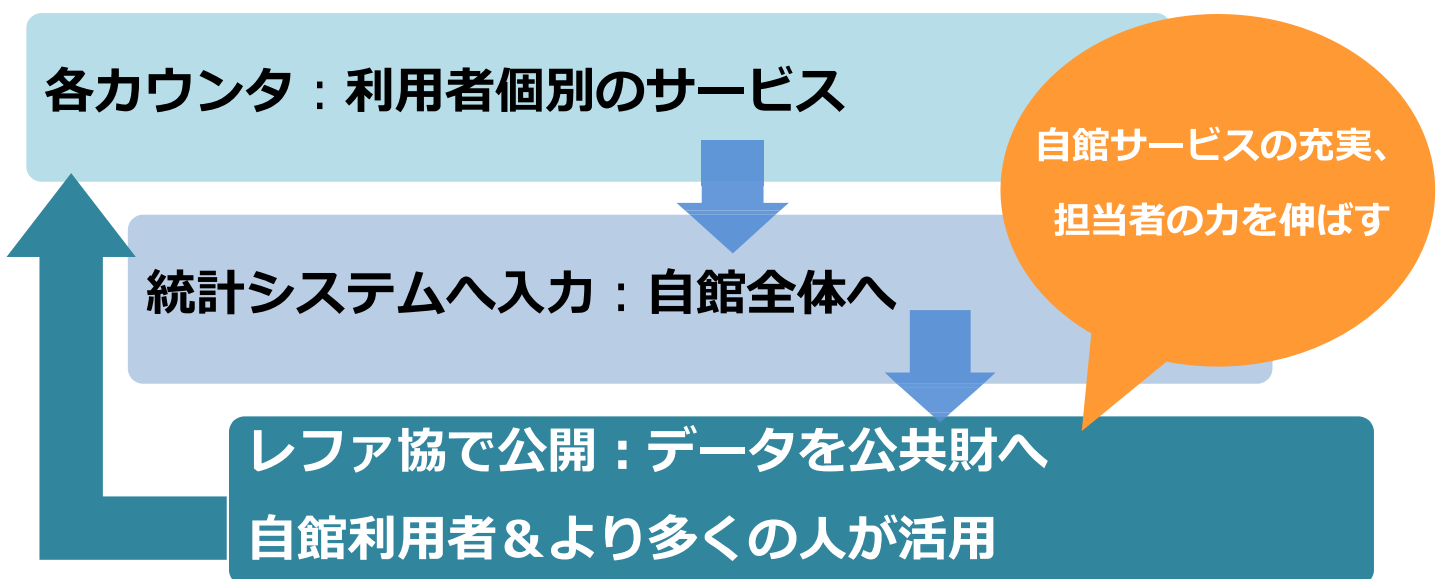
35

レファ協：データ入力を続けてゆく意義

- 1 学修支援に役立つ／利用者が再現できる
ex) 心理学について調べる
- 2 自館の利用者が必要な情報は、
多くの人に需要がある
ex) 著作権・引用作法
- 3 事例の寿命は長い
ex) ヨモツヘグイ

36

記録・共有・循環するシステム構築



37

おわりに

38

レファレンス：このはかないもの

「レファレンス」は受けとる利用者のもの。

どこまで渡すか、受け取って貰えるかを測る。

利用者に腑に落ちた瞬間が伝わることもある。

「レファレンス」は残らない。ふるまい、会話、感情

やりとり。だからこそ、記録できるものを残す。

プラットフォームがあれば、日々の営為が人を育てる。

様々な立場の利用者サービス担当者
研鑽（研修・研究会・大学院など）の難しさを超えて

39



＜ご参考＞

過去の近畿大学中央図書館発表資料

- ・ 図書館総合展 第5回レファレンス大賞
「すべてのカウンターにレファレンスを」
(2019) [発表資料](#)、[応募資料](#)
- ・ 第16回レファ協事業フォーラム
「レファ協というプラットフォーム
ーコロナ時代のレファレンス・サービスを考えるー」 (2020)
[「コロナ禍とレファレンスサービス」](#)

ご清聴ありがとうございました

40

第25回図書館総合展(2023)

近畿大学中央図書館の学修支援

-アフターデジタル時代に向かって-

オンライン配信
トークイベント

11月2日(木)
14:00-15:30



申込はこちらから↑



理工学部社会環境工学科

松井 一彰 教授



理工学部社会環境工学科

麓 隆行 教授

1.PBL科目「総合演習」における図書館連携

理工学部社会環境工学科 松井一彰 ・ 麓隆行

2.「学修サポートデスク」活動報告

総合理工学研究科 小久保治哉 ・ 法学研究科 笹脇青華

3.情報リテラシー教育 2020-2023

中央図書館レファレンス課 上野芳重

レファレンス業務体制の変貌 -オンラインレファレンスの開設から-

立正大学図書館 品川学術情報課
吉水 拓哉

2023年度私図協東地区部会 研修会
「レファレンスサービス最前線～どうしよう。それでも利用者は待ってくれない～」

2023年10月20日（金）

自己紹介

- 氏名：吉水 拓哉（ヨシミズ タクヤ）
- 入職：2015年4月 品川学術情報課に配属
- 主要業務
 - ・ レファレンス業務
 - ・ 資料保存（IPM関連）
 - ・ 機関リポジトリ
 - ・ システム関連（インフラ）
- 本日の講演関連

年.月	内容
2021.10	図書館総合展 第7回 レファレンス大賞 （文部科学大臣賞） コロナ禍における非来館型サービスの拡充とTeamsを活用した調査体制
2022.3	吉水拓哉. コロナ禍でのレファレンスサービス体制 再構築：Teams の活用. カレント アウェアネス -E- . 2022, No.432, E2481.
2022.8	吉水拓哉. Teams を活用したレファレンスサービス体制の再構築 ―立正大学図書館 の取り組み―. 大学図書館研究 . 2022, vol. 121. 論文ID:2138.
2022.11	日本事務器図書館応援ミニセミナー オンラインレファレンス機能を用いたレファレンス業務体制

2023年5月1日時点	東京・品川キャンパス	埼玉・熊谷キャンパス
学部・学科	6学部・11学科 7,952人	3学部・5学科 2,298人
研究科	5研究科 167人	2研究科 33人

2023（令和5）年度版大学基礎データ

2023年3月31日時点	品川図書館	熊谷図書館
蔵書数（図書）	685,579冊	333,394冊
職員数	7人	7人
レファレンス担当	4人	2人

4～11F	教室、センター、会議室、グループ学習スペース（4～7F）
品川図書館	施設等
3F	入館ゲート、図書カウンター、雑誌、端末
2F	レファレンスデスク 、PCカウンター、端末、閲覧席、参考図書、学修支援、就職資格、多読図書、グループ学習スペース
1F	入館ゲート、図書カウンター、文庫、0-1類、端末、閲覧席、グループ学習スペース
B1	2-9類、端末、閲覧席、事務室、グループ学習スペース
B2	閉架書庫
B3	閉架書庫

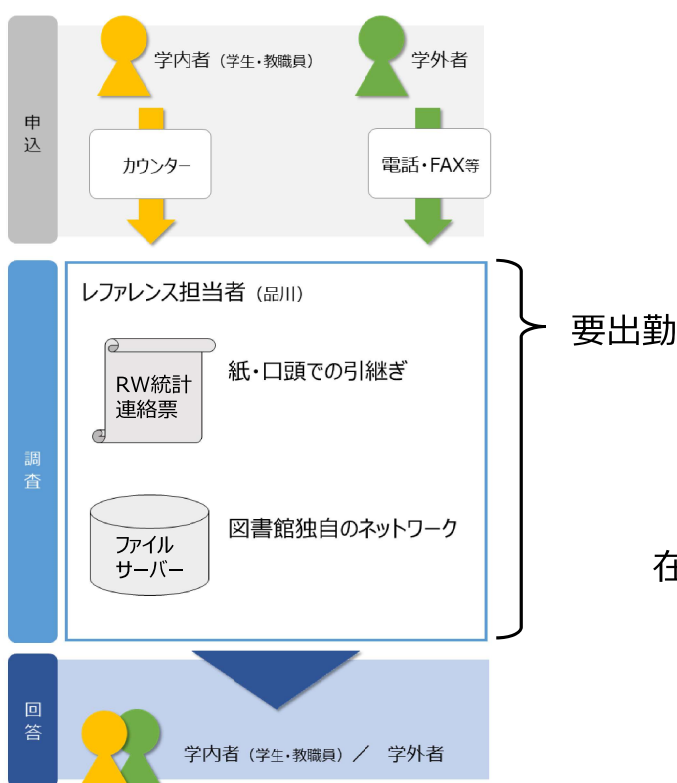
レファレンスデスク	2019年度まで	2020年4月から
開室	・9:30～12:00 (学生スタッフ) ・12:00～17:00 (担当職員)	停止
各種調査相談	・12:00～17:00 (担当職員) ・1Fカウンター (受付)	停止
文献複写・相互貸借 (受付)	・レファレンスデスク ・1Fカウンター ・My Library	・My Library
紹介状	・レファレンスデスク ・1Fカウンター (受付)	停止
研究室本出納 (受付)	・レファレンスデスク ・1Fカウンター	停止
NDLデジタル送信サービス (閲覧・複写)	・レファレンスデスク	停止

レファレンスデスク	2019年度まで	2022年現在
開室	・9:30～12:00 (学生スタッフ) ・12:00～17:00 (担当職員)	停止
各種調査相談	・12:00～17:00 (担当職員) ・1Fカウンター (受付)	・My Library (レファレンス) 2020年10月～ ・1Fカウンター (受付)
文献複写・相互貸借 (受付)	・レファレンスデスク ・1Fカウンター ・My Library	・My Library (ILL) ・1Fカウンター
紹介状	・レファレンスデスク ・1Fカウンター (受付)	・My Library (レファレンス) 2021年12月～ ・1Fカウンター
研究室本出納 (受付)	・レファレンスデスク ・1Fカウンター	・My Library (レファレンス) 2021年12月～ ・1Fカウンター
NDLデジタル送信サービス (閲覧・複写)	・レファレンスデスク	・My Library (レファレンス) 2021年12月～ ・My Library (ILL)

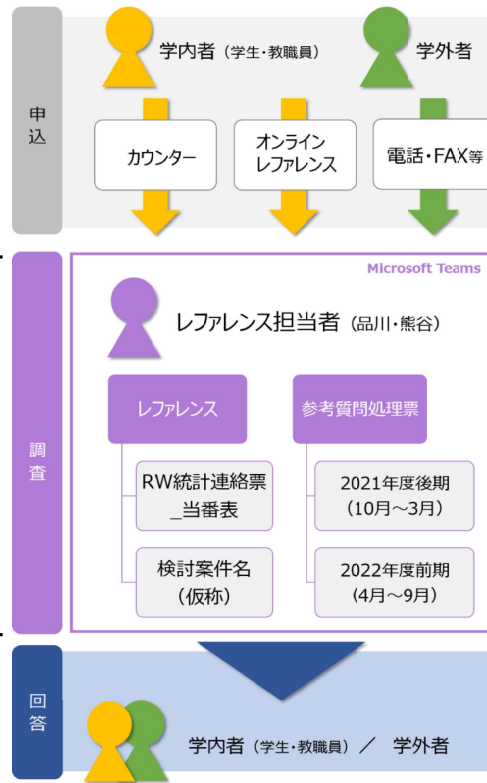
レファレンスデスク	2019年度まで	2023年現在
開室	・9:30～12:00（学生スタッフ） ・12:00～17:00（担当職員）	・月8回（2回×4人）程度
各種調査相談	・12:00～17:00（担当職員） ・1Fカウンター（受付）	・My Library（レファレンス） 2020年10月～ ・1Fカウンター（受付）
文献複写・相互貸借（受付）	・レファレンスデスク ・1Fカウンター ・My Library	・My Library（ILL） ・1Fカウンター
紹介状	・レファレンスデスク ・1Fカウンター（受付）	・My Library（レファレンス） 2021年12月～ ・1Fカウンター
研究室本出納（受付）	・レファレンスデスク ・1Fカウンター	・My Library（レファレンス） 2021年12月～ ・1Fカウンター
NDLデジタル送信サービス （閲覧・複写）	・レファレンスデスク	・My Library（レファレンス） 2021年12月～ ・My Library（ILL）

レファレンス業務について

■コロナ禍前



■コロナ禍後



オンラインレファレンス機能	Teams	その他
- 申込窓口を増やすことができた（場所/時間） - データの蓄積	- 情報の共有が容易になった - 紙媒体を気軽に破棄できる - 業務場所の拡大 - 業務分担が容易に	- 何かを見直す、オンラインに合わせる意識の向上 - データとして残す、データの視認性（体系的整理）を意識するように - ICTを積極的に活用する

オンラインレファレンス、Teams活用によって ⇒
連鎖反応的に変化（≒改善/改悪）するようになった

オンラインレファレンス機能



※利用者自身で調べることができる
コンテンツを増やす

[illegible]

※回答方法や希望日等を確認

オンラインレファレンス機能の実績

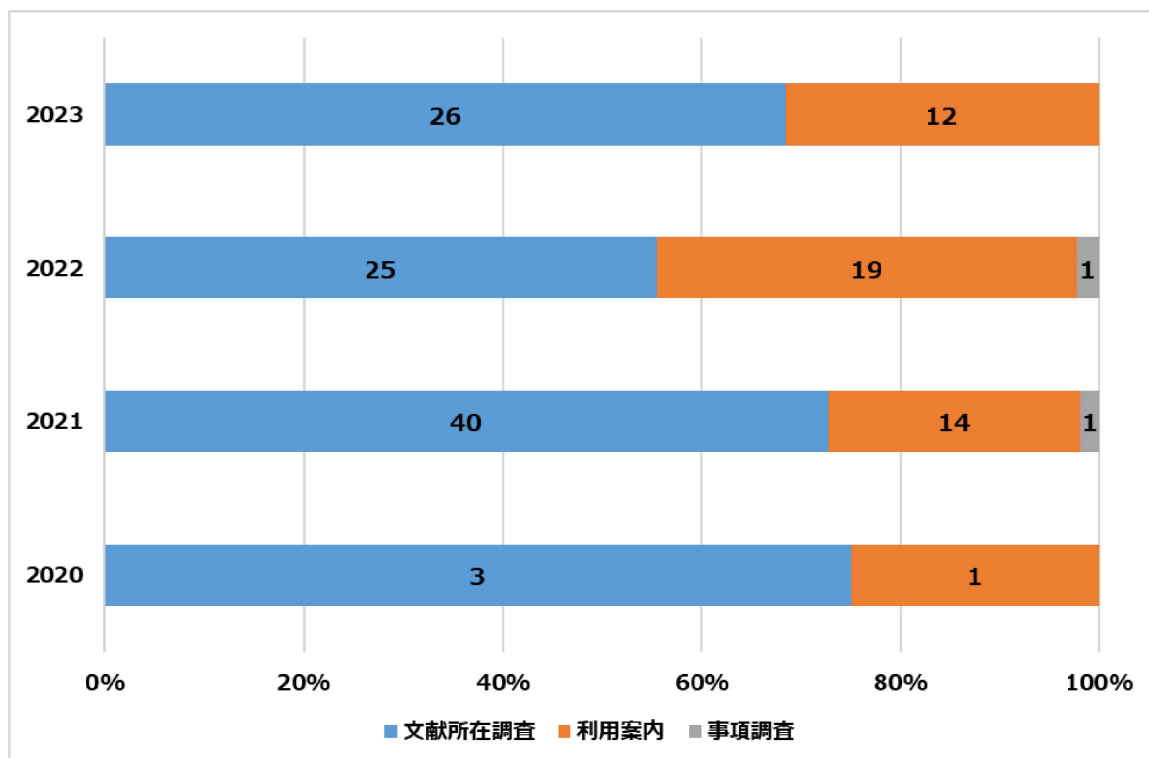
'20 : 事前予約
'21 : 人数制限
'22 : 短縮開館
'23 : 通常

2020-2023年度 申込総数

年度	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
2020	文献所在調査	-	-	-	-	-	-	1	0	1	0	0	1	3	4
	利用案内	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	1	1	
	事項調査	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	
2021	文献所在調査	0	0	0	2	2	3	17	4	4	1	2	5	40	55
	利用案内	1	1	2	2	0	1	2	1	1	2	1	0	14	
	事項調査	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
2022	文献所在調査	2	2	0	5	1	1	0	1	3	4	4	2	25	45
	利用案内	1	1	6	3	0	0	1	4	1	1	1	0	19	
	事項調査	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
2023	文献所在調査	5	4	7	6	4	0	-	-	-	-	-	-	26	38
	利用案内	3	2	4	0	3	0	-	-	-	-	-	-	12	
	事項調査	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	0	

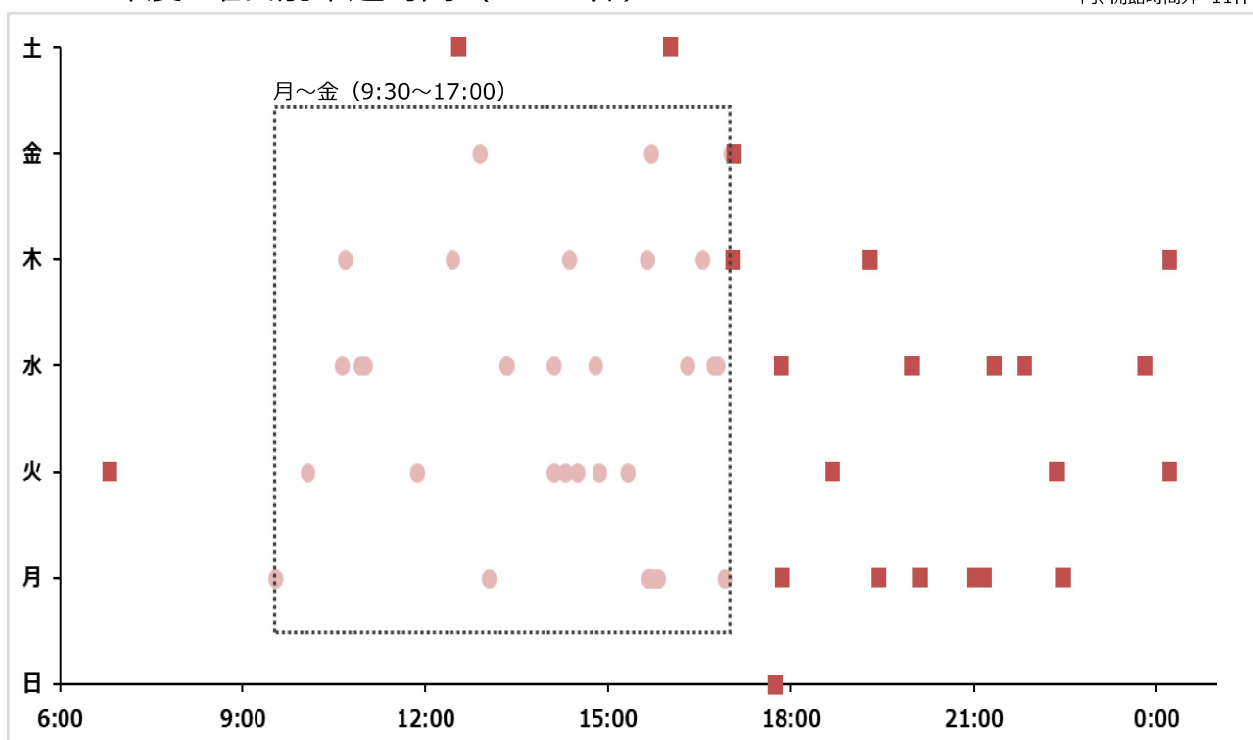
'20：事前予約
'21：人数制限
'22：短縮開館
'23：通常

2020-2023年度 申込内容割合



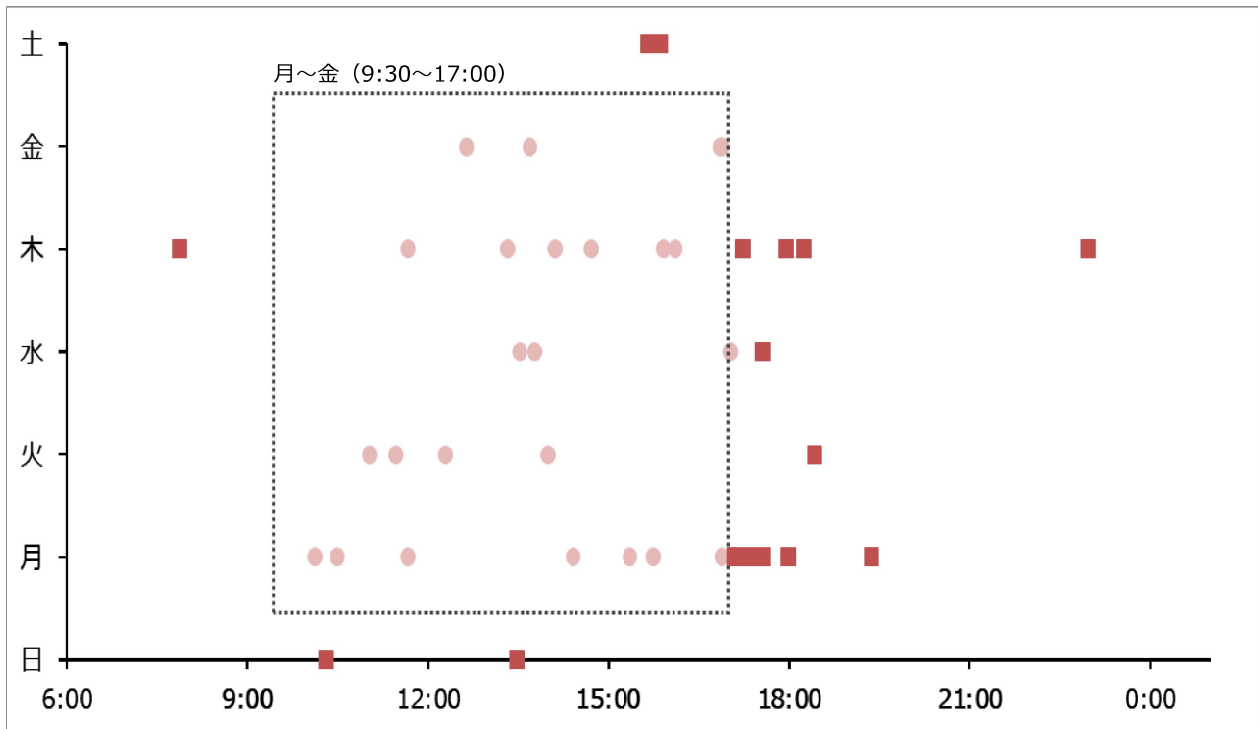
2021年度 曜日別申込時間 (n=55件)

● RD開室時間内 33件
■ RD開室時間外 22件
内、開館時間外 11件



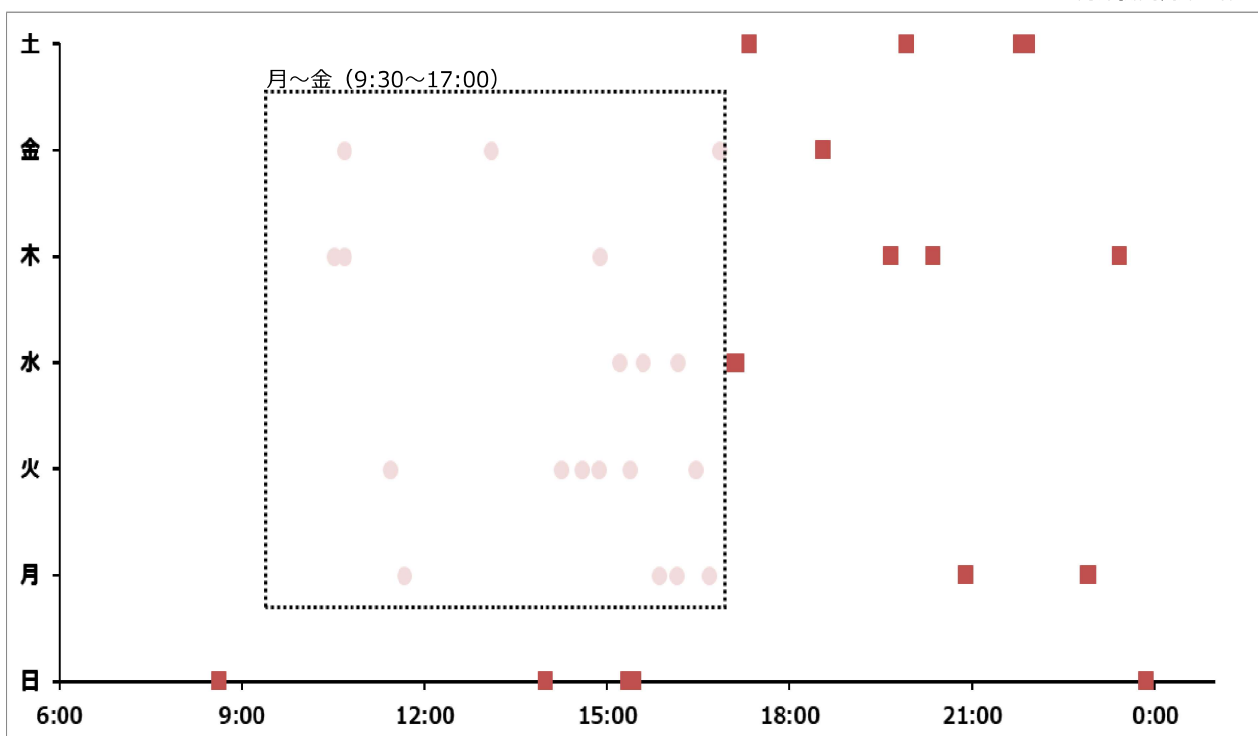
2022年度 曜日別申込時間 (n=45件)

● RD開室時間内 24件
■ RD開室時間外 21件
内、開館時間外 8件



2023年度 曜日別申込時間 (n=38件) ※4-9月

● RD開室時間内 24件
■ RD開室時間外 21件
内、開館時間外 8件



オンラインレファレンス機能の実績

時間帯	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	合計
6時	0	1	0	0	0	0	0	1
7時	0	0	0	1	0	0	0	1
8時	0	0	0	0	0	0	1	1
9時	1	0	0	0	0	0	0	1
10時	2	1	2	3	1	0	1	10
11時	2	4	1	1	0	0	0	8
12時	0	1	0	1	2	1	0	5
13時	1	1	4	1	2	0	2	11
14時	1	7	2	4	0	0	0	14
15時	8	2	2	2	3	2	2	21
16時	4	1	4	2	4	2	0	17
17時	6	0	5	3	1	1	1	17
18時	0	2	0	1	1	0	0	4
19時	2	0	1	2	0	1	0	6
20時	2	0	0	1	0	1	0	4
21時	2	0	2	0	0	2	0	6
22時	3	1	0	1	0	0	0	5
23時	0	0	1	1	0	0	1	3
0時	1	1	1	1	0	0	0	4
1時	0	0	0	1	0	1	0	2
2時	0	0	0	0	0	1	0	1
3時	0	0	0	0	0	0	0	0
4時	0	0	0	0	0	0	0	0
5時	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	35	22	25	26	14	12	8	142

- 2020-2023年度
曜日別申込時間（累計）
- 開館時間（月-金）
8:30-22:00
- 開館時間（土）
8:30-21:30
- レファレンスデスク（月-金）
9:30-17:00
※職員は13:00-
- 勤務時間（月-土）
9:00-17:40

オンラインレファレンス機能 4年目を振り返って

- My Libraryの一機能としての強みはある
⇒ オンライン申込の一本化、利用者データ
- 利用者とのやり取りをオンラインレファレンス上でしたい
⇒ チャット形式、データのやり取り
- 申込者の要求は対面時よりもわかりやすいか
⇒ 情報を予め出してくれる利用者が多い
- 文献所在調査：複数のデータベースを利用する人が少ない
⇒ 案内せずとも利用できる導線作り
- 利用案内：カウンターの代わり
⇒ サービスの拡張に繋がる

情報共有の変化

情報共有	～2020.10	2020.10～
レファレンス業務の統計・引継ぎ	紙	Excel Online
調査関係	紙	Word Online
ミーティング	対面	Teams
業務連絡・進捗報告	メール、ミーティング	Teams
データ保存	ファイルサーバー	Teams

Teamsの活用

レファレンス業務の統計・引継ぎ（紙 ⇒ Excel Online）

[illegible]

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U		
1	2023年10月29日(金)												記入者		午前		午後		/				
2	※下記時間帯ごとに受付処理件数をカウントします。												★RW担当者の確認		FALSE								
3	(注)身分がわかる場合は、身分ごとにカウントします。教：教職員 / 学生：学内学生 / 外：学外者 ※不明な場合は「学生」にカウントする。																						
4																							
5																							
6	時間帯	利用指導		文献存在調査		事項調査		貸出・返却対応	学部資料請求	学部資料追加	紹介状発行申込み	紹介状発行	ILL申込み	その他	セキュリティキー配布	デジタルコレクション付与	合計						
7		教職員	学生	学外者	教職員	学生	学外者											教職員	学生	学外者			
8	9:30~12:15																				0		
9	12:15~15:00																				0		
10	15:00~17:00																				0		
11	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
12	★利用指導：検索方法、サービス案内、読込手段のアドバイス ★文献存在調査・事項調査・資料調査を含む機能対応																						
13	★LL申し込み：文献複写・相互貸借申し込み ★その他：PC関係の質問、PCサポートカウンターへの取次ぎなど																						
14	<備考欄>																						
15																							
16																							
17																							
18																							
19																							
20																							
21																							
22																							
23																							
24																							

調査関係 (紙 ⇒ Word Online)

受付		年 月 日 () 前・後・夜		所属	
質問様式	☐ 面接 ☐ FAX	☐ 回答様式	☐ 面談 ☐ FAX	氏名	
	☐ 電話 ☐ 文書		☐ 電話 ☐ 文書		
質問種別	☐ 利用指導	☐ 所在調査 ☐ その他		住所	〒
	☐ 文献調査 ☐ 事項調査				
検索方法	☐ 学内等でのシステム ☐ 民間のシステム				電話
質問者 所属機関	学内 ☐ 学生 ☐ 教職員	学外 ☐ 学生 ☐ 大学外研究者 ☐ その他の			

質問内容	%/o(水) 建築学会資料、図庫情報提供、大倉国際館建設と光科学館関係に関する資料の提供を依頼しました。新しい情報は追加させていただきます。 森本/坂の時刻表も確認し、カシノミホで送りました。	
	%/o(木) メールを確認。■■■作成、シーメール宛てに良いと思います。 資料番号は振込より別紙書き添えてメールにてお送りします。 典拠：%/o(金) 図説作成、リストを作成しました。図説には主な資料の年代を記しました。	
調査の要旨	ワレズとオウサマに集積用ファイルボックスを作りました。 回答遅延、(寄主)、共同、在庫品から図説を送りましたが、■■■ %/o(水) ■■■さん中間報告をおこなわれました。資料目録調整済み、2月は3月頃までに最終図説を送ります。 資料編纂部が年度末発行予定の「ナチュラストーリー」というコーナーで■■■の経歴と総合チャートの発表を載せたための部室のこと。■■■ %/o(木) ①平成9(2001)～16(2004)年度の大事業目録記入 H13.7.30 発送 } 2002.田中幸子 担任「存在する限り」 H13.12.18 搬出 } の記事ある。田中幸子移動が明記されていたのは左記の日付が正しい。 H14.12.18～20 搬出 } 最終図説、リストを作成済み。調査に感謝状。 → 参加した年 = 平成13(2001)～14(2002)年度	
	%/o(水) ■■■さん最終回答を説明し、お返しました。■■■ 館運営資料は12月のファイルにコピーし、「田中幸子経歴記事」として製図室内ファイル棚に1冊置きました。	
最終回答	※全員手コピック後、ファイリングしてください。済印 ☐ 済 ☒ 済 ☐ 済 ☒ 済 ☐ 済	

(利用) 印刷装置:	本館・レポート・ワーキングスペース (複写機、その他の複製利用設備)
制作費:	2次印刷・写真撮影・組立 (有料、別途見積り)
文書管理:	図説・資料目録 (無償)
学内のシステム:	学内で利用できる情報検索システム (交際雑誌等、及び情報発信システム等)
学外のシステム:	JOIS、DIALOG、CRBI 等

参考質問紙票型
申込日 2023年 8月 20日 (日)

●新聞各誌版

分館	品川	氏名		所属	文学部史学科
Tel		E-mail		回答希望日	記載なし
				回答方法	

●書誌情報

レファレンス番号 または受付方法	298	カテゴリー (レファレンス担当者判別)	文献所在調査	DB掲載可否	
---------------------	-----	------------------------	--------	--------	--

■ニュースと、(新聞内容)

新聞地域版

■レファレンス内容

朝日新聞クロスサーチや、ヨミダス歴史館の新聞の地域版を読みたいのですが、地域版をクリックすると、「地域版を読むには契約が必要です。」と出て読めません。どうすれば地域版を読めるのでしょうか？

■典拠情報(参考にした資料の情報等)

◆(試験的考入：年度末頃に評価予定) 調査の方向性

※調査状況に応じて記載してください。

※記載できる方は積極的にお願いいたします。

日付	記載者	調査の方向性

◆調査の要旨 ※必要に応じて行を追加してください。

日付	担当	調査内容
8/21		DB担当に地域版は契約外か要確認。 あわせてDB以外で地域版の新聞を読むための方法を案内するのが良いか。 リサーチナビ「地方の新聞を読むには」 https://rnavi.ndl.go.jp/jp/newspapers/post_758.html#4

Teamsの活用

吉

吉水 拓哉 8/3 12:00

会議を予定

📅

2023年度第5回レファレンスミーティング

2023年8月25日 金曜日 @ 15:00

...

すべて折りたたむ

吉

吉水 拓哉 8/3 12:10

品川レファレンス担当 熊谷レファレンス担当

お疲れ様です。25日（金）は15:00から開始します。そのため、報告事項については、各自事前に資料に目を通してください。状況に応じて、本投稿の返信にて補足・質問等の対応をお願いいたします。

議題のデータを用意しました。随時入力ください。事前に検討いただきたい点がわかっている場合は、予め知らせるなど、当日が円滑に進むようご対応をよろしくお願いいたします。また

詳細表示

📄

(第5回) 2023年度レファレンスミーティング議題.docx

...

品川レファレンス担当 熊谷レファレンス担当

報告2の資料についてですが、前回お知らせした通り、オンラインレファレンスと参考質問処理票の数値項目を変更しております。

どうぞよろしくお願いいたします。

📌

会議終了:9分14秒

↓

参加者のレポート

出席者レポートをダウンロードするには、ここをクリックしてください

小

8/28 10:47

レファレンス担当各位

お疲れ様です。8/25(金)に開催しました第5回レファレンスMTGについて、議事録案を作成いたしました。

ご確認のうえ、修正点等ございましたらご指摘いただけますと幸いです。以上、よろしくお願いいたします。

案【議事録】2023年度第5回レファレンスミーティング.docx

📄

案【議事録】2023年度第5回レファレンスミーティング.docx

...

msteams_4b5a5a5 > General

←

返信



Teamsの活用 4年目を振り返って

- 投稿と返信で情報の整理、情報の小出し
⇒ トピックごとにやり取りができる = 流れもわかり見返しやすい
- 職員だけでなく学生も利用できる
⇒ 院生アルバイトともTeamsでやり取り
- データ化、オンライン化、オートメーション化
⇒ Forms + Power Automate + Excel Online
- 参考質問処理票
⇒ レファレンス協同データベースを見据えて修正を検討したい
- レファレンス連絡/統計票
⇒ 管理が楽なレベルでオートメーション化ありか？

オンラインレファレンス機能	Teams	その他
• 申込窓口を増やすことができた • データの蓄積	• 情報の共有が容易になった • 紙媒体を気軽に破棄できる • 業務場所の拡大 • 業務分担が容易に	• 何かを見直す、オンラインに合わせる意識の向上 • データとして残す、データの視認性（体系的整理）を意識するように • ICTを積極的に活用する

オンラインレファレンス、Teams活用によって ⇒
連鎖反応的に変化（≒改善/改悪）するようになった

（個人的に）新しいことに取り組む余裕に繋がった？？



レファレンスにおける電子資料の利用と入手



明治大学 中野図書館
西脇亜由子



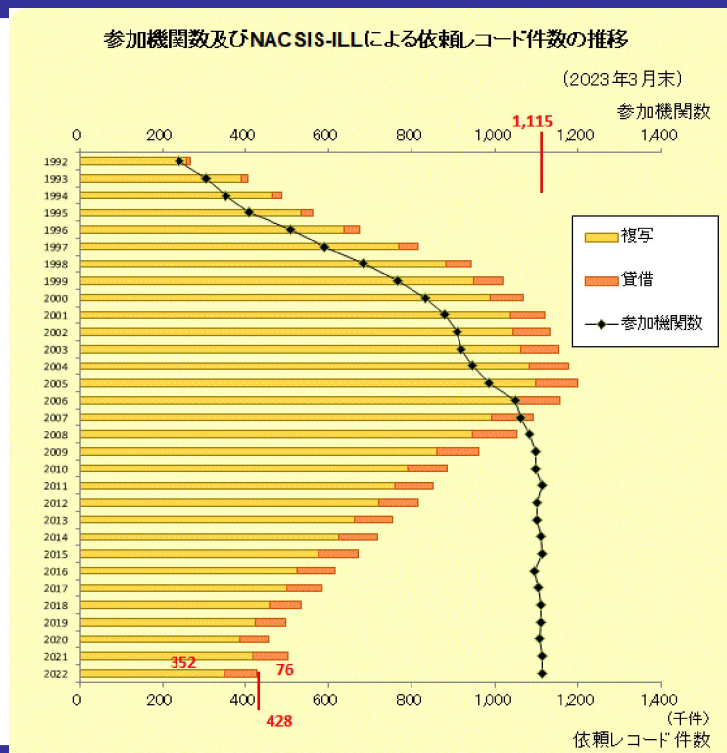
レファレンス業務で電子資料の入手が必要になる場面

1

- ILL依頼時の所蔵調査
- 文献・事項調査



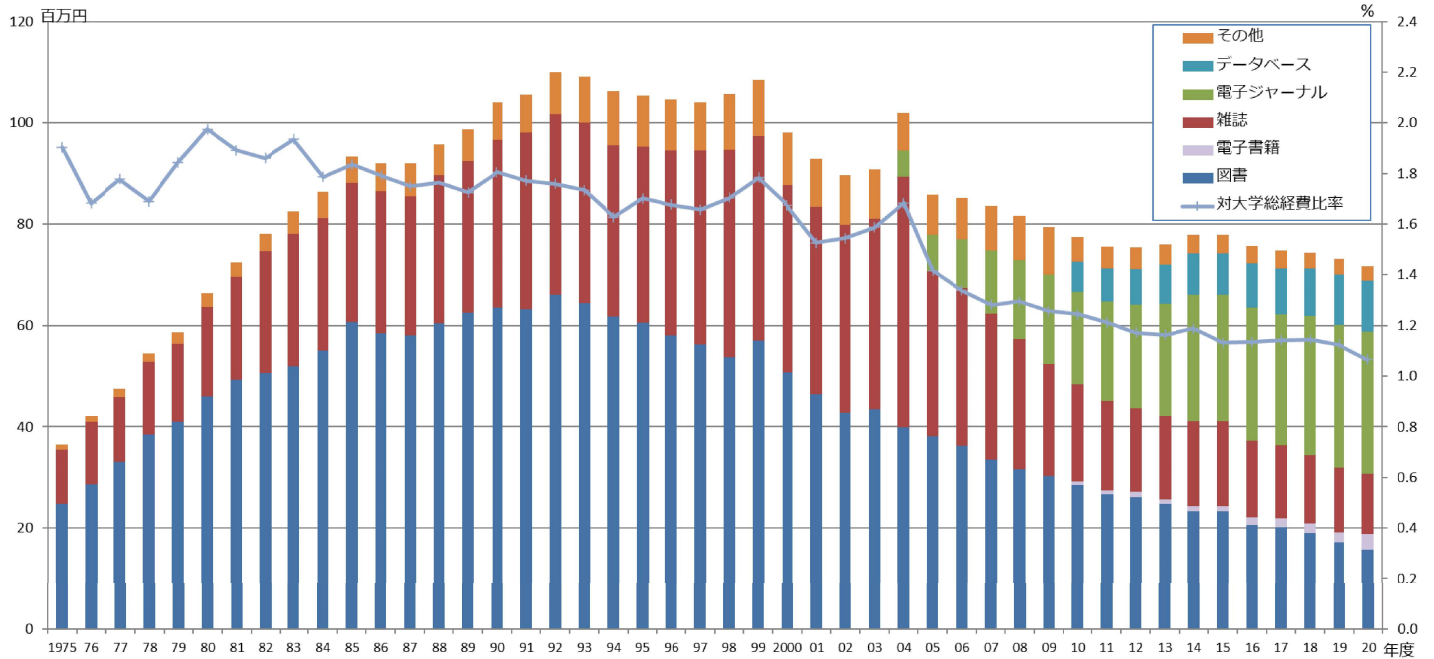
- 国内ILLの件数の推移(Nacsis-ILL)
- 電子ジャーナル導入規模の推移
- 国内の大学の状況
- 明治大学の例



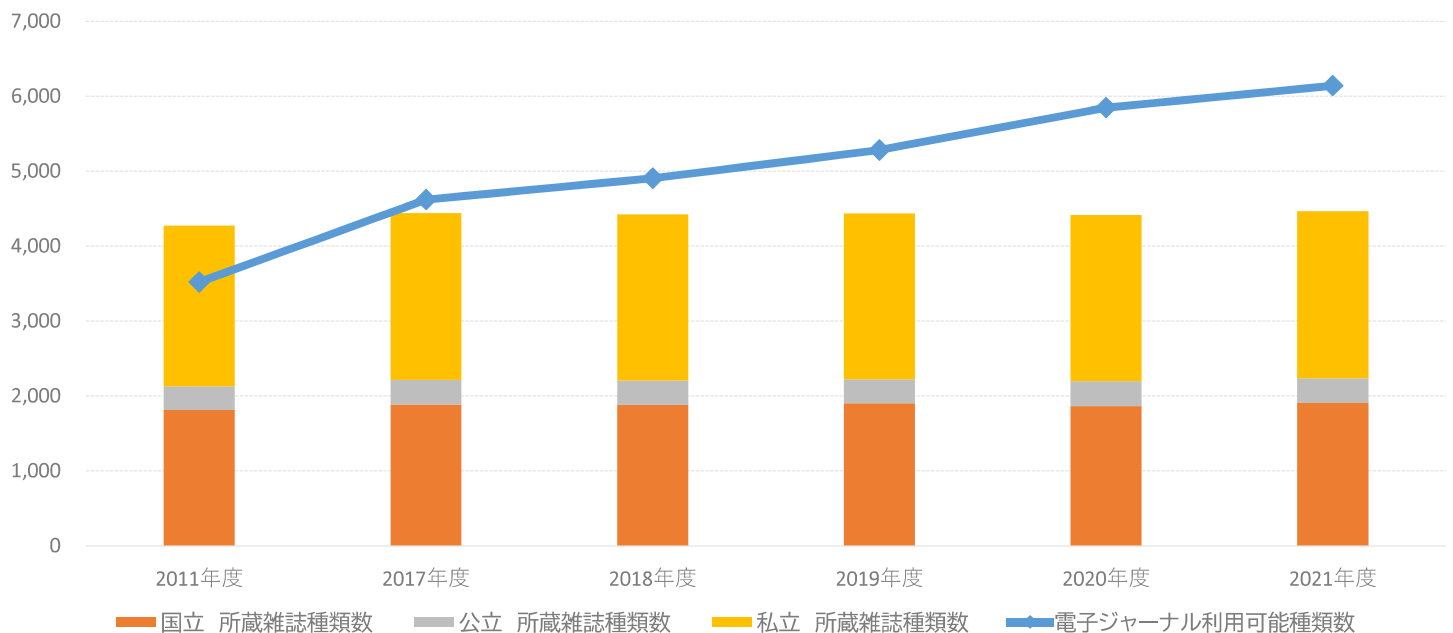
- 2005年が複写依頼件数のピーク
- NACSIS-ILL依頼レコード件数
<https://content.s.nii.ac.jp/catill/stats/ill/reqnum>



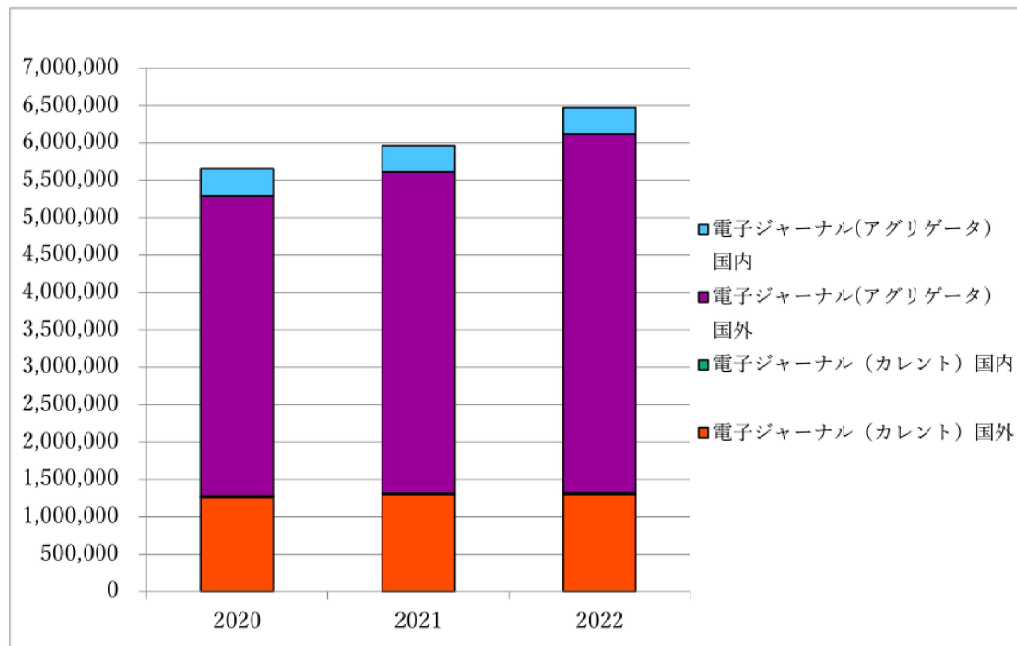
図書館資料費の推移：私立大学 1大学あたり平均額



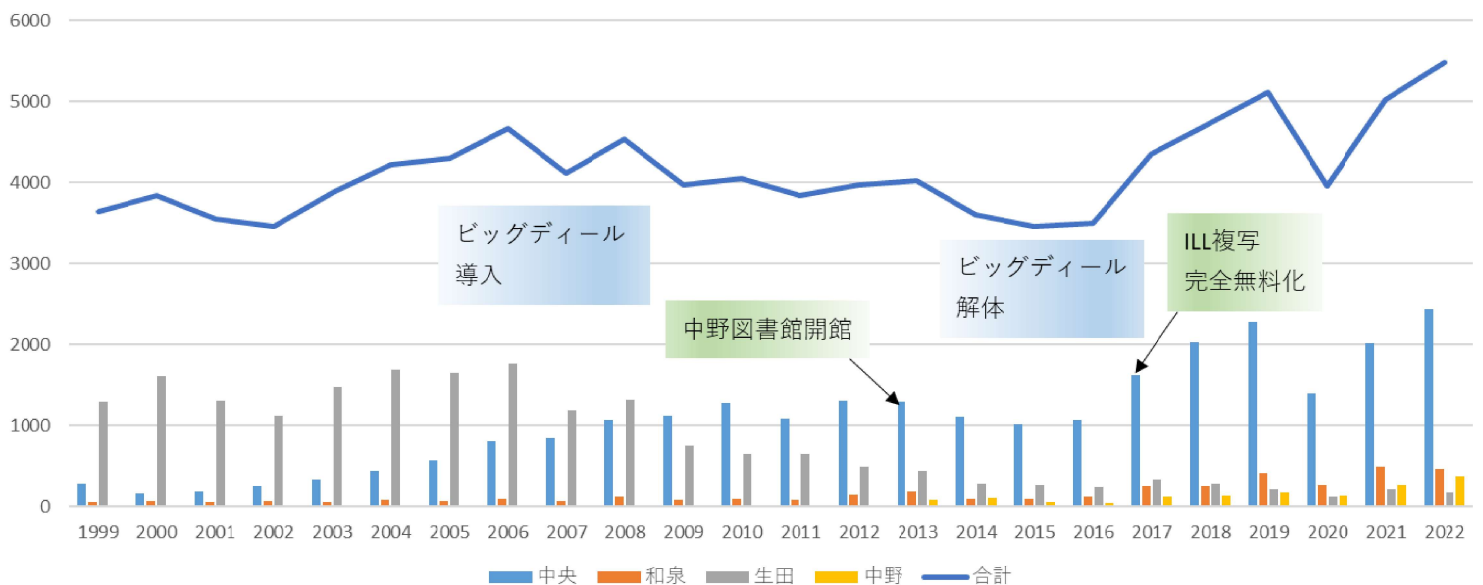
所蔵雑誌種類数と電子ジャーナル利用可能種類数の推移(単位:千種類)



4. 電子ジャーナル(カレント／アグリゲータ)の国外／国内別購読タイトル数



ILL（文献複写）依頼件数推移（明治大学図書館年次報告書1999～2022より）





- 必要な文献がたまたま電子資料だった
- 検索ツールの全文リンク・外部連携の進展
- 電子資料の方が入手のスピードが速く入手時のコストは低い場合が多い
(OAはAPC負担など、契約コンテンツは機関契約など)



- 論文 近年刊行の論文(ジャーナル)は電子化・OA化の可能性(特に海外、ただし国内も確認した方がよい)
- 図書 資料によって電子化、DA収録、OA化
- 博士論文由来のもの DB収録またはOA化の可能性
- 電子資料「を」探すという意識はなくても…
結果的に、探している文献が電子資料「で」見つかることが増えている。
- 契約コンテンツ以外の検索ツールも増加。どういうツールがありどのような探し方ができるかアタリをつけると効率的。いきなりGoogle Scholarでもそれなりに見つかるが…。



□ 学内所蔵の確認(冊子・電子、契約コンテンツやOA)

↓ 所蔵がない・見つからなければ…

□ 学外所蔵の確認(冊子・電子) → 所蔵がある・依頼可能ならILL (国内にない→海外の所蔵など確認)

□ ILL依頼できない場合はコンテンツ単位での購入など



□ 自分の大学で使える検索ツール・フルテキストデータベース(OPACやディスカバリーなども)

□ CiNiiで探してなければ分野・時代・地域などでツールを絞っていく (契約データベースや電子ブックなどにもあたる)

□ NDLデジタルコレクション

□ 人文・社会科学系: JapanKnowledgeLib(JKBooksなども含む)

□ 自然科学系: J-STAGE、JDreamIII

□ 国内機関によるDA・データベース

□ ジャパンサーチ(DA横断検索) → 連携する各データベースの検索



- 電子化により冊子体が廃刊したジャーナルのILL依頼。
- 国内の学会誌で電子のみの刊行のため冊子体の所蔵館がなく、J-STAGEに書誌はあるが、本文は会員限定で、自機関は会員ではない。
- データベース(アグリゲータ系)に入っているはずのコンテンツが消えた。
- 契約している電子ジャーナル／データベースに、これまではアクセスできたのに、アクセスできなくなったと利用者から言われた。



- 「巴響」(函館文化会の会報)掲載の論文の複写依頼 → 函館文化会のウェブサイトで公開。
- 「日本語日本文学」(ISSN:1609896X)「CD-ROM版」所収日本語論文の複写依頼 → 発行元は台湾の大学。台湾の国家図書館で電子資料としてオンライン公開。
- 野性時代 : yaseijidai 224号の記事への複写依頼 → 電子版のみの刊行、個人契約のみで機関契約がないため入手不可。
- 「上足」という言葉についての事項調査 → MeLの詳細検索で本文検索＋ジャンル絞り込みなど(本文ボタン)。ほか冊子体なども。
- 「紫鏡」という言葉にまつわるジンクスについての事項調査 → Wikipedia、新聞記事データベース、日文研「怪異・妖怪伝承データベース」、Web OYA-bunkoなど。『日本怪異妖怪大事典』に項目あり。



□ 契約DB・ジャーナルの検索

論文検索データベース: Web of Science、Scopusなど。

電子ジャーナル・アーカイブ: JSTORやProjectMUSEやMLAなど。

古い年代・特定分野の資料はデジタル・アーカイブに収録の可能性も。

□ 出版社が確定できれば出版社プラットフォーム検索

□ フリーの論文検索データベースなどで検索 (Semantic Scholar、Google Scholar、COREなどのOA検索サイト、PubMed他)

□ Nacsisでも確認 国内の所蔵(冊子体)の有無

□ WorldCat 所蔵館確認

□ 全文がみられなくても、検索ツールは書誌情報の確認に使える



□ 契約しているジャーナルか？ほしい論文は利用範囲に含まれているか？ 契約パッケージの収録コンテンツは確認できるか？

□ 複数のプラットフォームに収録されている？

□ 出版社Aのジャーナルとして見られると思ったら、実際には見られない。 →他社移管タイトル(パッケージ契約でもありうる)

□ 契約しているはずのジャーナルなのに、そのジャーナルに掲載されている論文が見られない。→さまざまな理由が考えられる(契約範囲外、アクセス不具合: 版元側の更新ミスやサーバメンテナンス・大学側の問題など、学内か学外か、など)

□ 本学の事例: 学内所蔵(SD PPVなどを含む)、国内他大学の所蔵・オンライン公開などを確認。→いずれもない場合は、DDS(Reprints Desk)で入手可能か確認。図書(部分複写も含む)の場合や利用者区分によりやむを得ない場合などは海外ILL。



- 「Burtyのジャポニズム連載」 → フランス国立図書館の電子図書館で参照可能。ジャポニズムをテーマとしたページの説明を参考。雑誌も電子資料として収録。
- SCIENTIFIC AMERICAN, supplment(1882年2月18日刊行)所収記事の複写依頼 → HathiTrustでフルテキスト参照可能。
- “A Historiography of the modern social sciences”(2014、ISBN=9781107037724) という図書の部分複写依頼 → Googleなどでタイトル検索、ケンブリッジ大学のサイトで公開。
- ドイツ語図書“Über die Bedeutung des Willens bei Willenserklärungen”(1970、1874年刊行のリプリント版) の部分複写依頼 → Max Plunk協会の電子図書館(DLC)で公開。
- “The use of compensatory strategies by Dutch learners of English”という図書の貸借依頼 → 学位論文提出大学のリポジトリで出版社版が公開。



- アグリゲータ系や遅延OA
エンバーゴ(最新の巻号は見られない、ではいつから見られる?)、
ローリング(契約コンテンツでアクセス可能範囲が年々移行していく。
前は見られたのに…ということも)
- カレント契約はあるがバックファイルに該当する論文の場合は？
- DOIなどの識別子の有無 オンラインの所在確認
- ISSNの有無 ジャーナルの特徴を把握(出版者・出版地・移管やタイトル
変遷・分岐などの経緯)
- オンライン出版が先行するケース 巻号・頁数の有無
- なぜそのコンテンツが見られるのか？なぜ見られないのか？





- OAの種類(Piwowar他2018、西岡・佐藤2021*、下城2022など)
- ゴールドOA(APCを著者または著者の所属機関などが負担)
フルOA:ジャーナル全体がOA →DOAJなど
- ハイブリッドOA:購読ジャーナルで一部がAPC支払によってOA論文
→商業出版プラットフォーム
- グリーンOA(著者によるセルフアーカイビング) 紀要や学位論文→機関
リポジトリ、査読前の論文→プレプリントサーバ、ゴールド・ハイブリッド
OAの「著者最終稿」→機関リポジトリなど
- ダイヤモンドOA・プラチナOA(ゴールドOAの非営利型、著者による
APC負担なく機関による費用負担や共同出資モデルなど)
- ブロンズOA(購読ジャーナル論文などを出版社の広報的な意図などによ
り一時的に公開、明確なライセンスなしのOA) →日本のOAに多い*



- 学術系SNS(Research GateやAcademia eduなど)
永続性や著作権などに注意、アカウント登録等も必要
- 教育系プラットフォーム(著作権処理など不明)、オープンコースウェアな
どのオープン教育資源(OER)
- ゴールドOAかハゲタカジャーナル(粗悪学術誌)か チェックリスト・関連
情報など 各大学の研究支援・機関リポジトリなどのページ
- ハイブリッドOAとブロンズOA 遭遇率高いが迷いやすい
- ブロンズOAや学術系SNや教育系コンテンツなど、ライセンスや著作権
表示が不明のもの
- プレプリント それと認識した上で判断必要、利用者にも確認



- 国内の電子ジャーナル所蔵の有無を総合的に確認できる検索ツールはない → ERDB-JP、電子リソース管理サービス(ライセンス情報)
- https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/e-resources/service_construction
- 冊子体雑誌の所蔵状況、パッケージ契約の有無
- Nacsisのデータ GMD:w NOTE:Access: via WWW など
- レンディング・ポリシー
- ジャーナル最新号もILL可能(ライセンス次第)
- 電子ブックのILL 国内コンテンツでは非対応? 海外コンテンツであればライセンスにより対応可能な場合も。
- 論文レンタル・論文単位購入(電子配信)など



- 契約データベース 購読型以外に買切型のものについても書誌データをリゾルバなどに登録しているかで検索性に差が出る(どんなコンテンツがどのデータベースにあるか把握しきれないため)
例: 古い年代の図書や特定分野の雑誌バックファイル、統計資料などで電子化(契約データベース)されている場合など
- 自機関の購入・契約コンテンツに関する情報共有
- 冊子体との混在
- 入手コストと利便性、利用の公平性 海外ILLツール(例: RapidILL、WorldShare ILLなど)とDDSなどの比較?
- 著作権法改正 図書館等公衆送信サービス 図書館業務拡大の可能性?
<https://www.sarlib.or.jp/>



- カレントアウェアネス
- JUSTICE
- 図書館系のジャーナル・ニュース・サイト 例:Choice
- 出版社・書店(代理店)・ベンダーのサイト・メルマガ
- 研究者ブログ



- 高橋 隆一郎, COVID-19(新型コロナウイルス感染症)関連資料を探すために, 大学図書館研究, 2020, 116 巻, 公開日 2021/01/13,
<https://doi.org/10.20722/jcul.2095>,
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/116/0/116_2095/_article/-char/ja
- 西岡 千文, 佐藤 翔, Unpaywallを利用した日本におけるオープンアクセス状況の調査, 情報知識学会誌, 2021, 31 巻, 1 号, p. 31-50, 公開日 2021/03/26,
https://doi.org/10.2964/jsik_2021_016,
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/31/1/31_2021_016/_article/-char/ja
- 下城 陽介, ダイヤモンドOA, 9-3_monthly_jpcoar, 公開日2022/6/10,
https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/record/2000167/files/9-3_monthly_jpcoar.pdf



- 西脇亜由子, 電子ジャーナルとILL, (平成29年度国立大学図書館協会近畿地区事業「文献入手スキルアップセミナー」)
<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90004478>
- 西脇亜由子「電子ジャーナルの購読中止と代替手段について」(2020年度JUSTICE電子資料契約実務研修会)